

平成 29 年度

山江村未来塾 100 人委員会運営支援業務報告書

平成 29 年 11 月

株式会社 地域総研

目 次

1	山江村未来塾 100 人委員会運営支援業務	1
2	経緯一覧（平成 29 年）	1
3	山江村未来塾シンポジウム	3
4	未来塾村づくり部会の活動と課題	17
5	山江村地域づくりの今後の方向	21
	部会の活動記録（資料）	23

1. 山江村未来塾 100 人委員会運営支援業務

山江村未来塾 100 人委員会は、平成 28 年度に農業・ブランド化、観光・文化、環境・防災、福祉、教育・人材育成の 5 分野において 9 部会が発足し、部会ごとの活動の方向に沿って、それぞれの主な事業について取り組み始めている。平成 29 年度は、これらの 9 部会の主な事業の具体化を進め、一定の事業成果を挙げるとともに、山江村が目指す住民参画の村づくりの基盤構築を図るため、村づくりの助言を行い、未来塾 100 人委員会の運営を支援するものである。

2. 経緯一覧（平成 29 年）

4 月 8 日（土）	福祉部会（第 1 回）
4 月 12 日（水）	食の提供部会（第 1 回）
4 月 13 日（木）	文化・教育部会（第 1 回）
4 月 17 日（月）	情報発信部会（第 1 回）
4 月 20 日（木）	やまえ栗ブランド部会（第 1 回）
4 月 23 日（日）	トキの朝市（第 1 回）
4 月 30 日（日）	福祉祭り（食の提供部会発表）
5 月 18 日（木）	文化・教育部会（第 2 回）
5 月 23 日（火）	健康・スポーツ部会（第 1 回）
6 月 5 日（月）	情報発信部会（第 2 回）
6 月 6 日（火）	やまえ栗ブランド部会（第 2 回）
6 月 13 日（火）	観光・交流部会（第 1 回）
6 月 15 日（木）	文化・教育部会（第 3 回）
6 月 17 日（土）	食の提供部会（第 2 回 懇親会）
6 月 18 日（日）	山江村未来塾 100 人委員会 シンポジウム
7 月 5 日（水）	やまえ栗ブランド部会（第 3 回）
7 月 9 日（日）	情報発信部会（第 3 回）
7 月 10 日（月）	観光・交流部会（第 2 回）

- 7月19日(水) 福祉部会(第2回)
- 7月24日(月) 健康・スポーツ部会(第2回)
- 7月27日(木) 集落営農・地産地消部会(若手農業者)(第1回)
食の提供部会(第3回)
- 8月1日(火) やまえ栗ブランド部会(第4回)
- 8月19日(土) 集落営農・地産地消部会(若手農業者)(第2回)
- 8月21日(月) 観光・交流部会(第3回)
- 8月23日(水) 福祉部会(第3回)
- 8月28日(月) 文化・教育部会(第4回)
環境・防災部会(第1回)
観光・交流部会(第4回)
- 8月29日(火) 食の提供部会(第4回)
健康・スポーツ部会(第3回)
- 9月24日(日) やまえ栗まつり
- 9月25日(月) 栗拾い体験ツアー(観光・交流部会)
環境・防災部会(第2回)
- 10月2日(月) 文化・教育部会(第5回)
- 10月11日(水) 観光・交流部会(第5回)
- 10月12日(木) やまえ栗ブランド部会(第5回)
- 10月23日(月) 食の提供部会(第5回)
- 10月24日(火) 健康・スポーツ部会(第4回)
- 10月26日(木) 文化・教育部会(第6回)
- 10月29日(日) トキの朝市(第2回)
隠れ念仏ツアー(観光・交流部会)
朝市へ出店(福祉部会)
- 11月6日(月) やまえ栗ブランド部会(第6回)
- 11月30日(木) 集落営農・地産地消部会(若手農業者)(第3回)

3. 山江村未来塾シンポジウム

テーマ「住民参画によるむらづくり」

～誰もが元気で楽しく暮らしやすい村を目指して～

日時 平成29年6月18日（日）午後1時30分開会

場所 山江村農村環境改善センター（大会議室）

パネリスト 山江村長 内山慶治氏

早稲田大学名誉教授 宮口侗迪氏

食の提供部会 部会長 山北早織氏

観光・交流部会 部会長 田村四郎氏

福祉部会 部会長 川内孝之氏

コーディネーター 地域総研代表取締役 佐藤和弘氏



佐藤

始めにこのパネルディスカッションの進め方を説明させていただきます。


先ほど、未来塾の9部会の活動報告がありましたが、その中から部会長の3名の方にパネラーとして参加して頂きました。

そこで進め方としまして、まずこの3名の部会長さんに私の方から質問を致しまして、先程の活動報告では聞けなかった苦労話や今後のことなどをお聞きしまして、それをつなぐような形で、その後、宮口先生と内山村長にご意見やアドバイスを頂くということにしたいと思います。そして少しこの5人のパネラーで話ができたらと思っています。

また、最後には、今日この会場に来て頂いている方々から、時間の関係でお一人か二人くらいかと思いますが、ご質問やご意見を頂きましてまとめにしていきたいと考えております。どうぞ、ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

まず、先程の宮口先生のご講演の中で、私が一緒に未来塾の村づくりのお手伝いをさせて頂いている一人として印象に残りましたことは、「未来をつくるということは、わからないことに挑戦すること」なんだということ、そしてもう一つは、未来をつくる時の我々の立場というのは、「都会に無い田舎の



	<p>価値感、つまり山江村の価値を大切にしながら未来をどうつくっていくか」が大事なんだと話して頂き、非常に共感し、また心強く思ったところです。この未来塾は、振り返りますと昨年の4月にシンポジウムをしましてそこからワークショップをしまして9月にこの9つの村づくり部会が発足しました。ですから実質的には昨年の9月から部会が活動に入って現在に至っているということになります。</p> <p>それぞれの部会で活動内容もまた進み具合も違っております。</p> <p>そのような中、本日は食の提供部会から山北さん、観光交流部会から田村さん、福祉部会から川内さんの3名に登壇をお願いしたという次第です。</p> <p>まずは、4月23日に“トキの朝市”を開催されました食の提供部会の山北さんに質問をさせていただきます。</p> <p>一つは“トキの朝市”の2回目はいつあるのかというのを何人かの方から聞かれます。2回目の予定はありますか？また、昨年から食の提供部会の活動を見てみますと、女性だけで集まって会議をされてこられて、最初は色々ありましたが、決まったらサーッと行動に移されてノリの良さみたいなものがあってとてもよかった。また、山北さん自身が活動報告で言われましたが「ボランティアじゃ駄目だ、ちょっとでも良いから稼ごうよ」という姿勢が、皆を引っ張ってることができた要因の一つでもあったんじゃないかと思っています。山北さんには、もう一度、なぜ稼ぐ村づくりが大事なのかという点も話して頂きたいと思います。</p>
山北	<p>活動報告でも話しましたが、やはり皆が何かをしようという時には、利益がくっついてきた方が人は動いてくるスピードが早いと思うので、ボランティアだけじゃなくて村の協力を得ながらみんな一人ひとりが稼げるような、そういう形にしてみたかったので朝市をしました。</p>
佐藤	<p>朝市は私も見に来ましたが、100人とは言わない結構多くの方が来られました。今振り返って次につなげるとしたらどんなことを考えておられますか。</p>
山北	<p>野菜が全体的に足りなかったと思う。また、野菜以外にも2回目をするときには、皆さんがそれぞれ出したいものをもっと朝市に出店したいという方をお声掛けして増やしていきたいです。</p>
宮口	<p>朝市は、手数料という形でお金が入ったのですか？</p>
山北	<p>出店料は1店舗につき500円頂きました。出店も1人で出店するだけじゃなく2~3人で組んで出店することもできることにしました。後は、各自で出店された方が野菜を売ったり卵かけごはんを売ったり、自分の家から洋服やリサイクル品を売ったりしてその利益を皆さんそれぞれが得るようにしました。</p>
	
佐藤	<p>出店は何店舗あったのですか。</p>
山北	<p>13店舗ありましたので出店料だけでも部会に6,500円の儲けがありました。</p>
佐藤	<p>次は観光交流部会の田村さんにお聞きします。</p> <p>観光交流部会は年配者が多いこともあって実はあまり集まる回数も少なかったと思います。しかし、田村さんご自身が従来から願掛け巡りやフットパスの案内などもされており、村の歴史や文化財にもお詳しくて、それで部会の仲間も一緒に引っ張られてきた</p>

	<p>感があります。</p> <p>田村さんの活動報告では、まず観光ガイドを育成したいと言われました。また、ボンネットバスを活用していきたいともいわれましたが、それらは具体的にはどんな風に展開していこうとお考えですか。</p>
田村	<p>他の町村には観光ガイドがいたりしますが、山江村には観光協会がないこともあって、どのように観光ガイドを育てていくかは今からやらねばならないことと思っています。</p> <p>この観光交流部会が中心になって皆さんに呼び掛けて、できたら部会は高齢者が多いので若い方にも呼び掛けてまた女性の方も参加して頂ければ少し変わっていくのではないかと思います。</p>
佐藤	<p>観光ガイドの育成の方から話しますと、先程の食の提供部会の山北さんの話からは、できれば少し収入が得られる方がいいんじゃないかということからしますと、ヒントになることもありますでしょうか。</p>
田村	<p>やはりパンフレットを作った上で、ガイドの観光ルートも1時間なり2時間なりのコースが必要んじゃないでしょうか。また、それにかかる経費を積算してみて、例えば運転手を雇ったりガイドに参加してもらったり、あるいはPRや情報発信などにも経費がかかりますので、それらを大方つかんで、その中から1人当たりの経費を出しておく。さらにバスに例えば25人乗った場合、いくらぐらいならまかなえるかを検討していくようなことになると思う。</p>
佐藤	<p>田村さんの報告では、2回目の朝市と協同でやろうと言われていました。まず、人が来ないと観光は成り立ちませんので、朝市に来られるお客さんを中心にしてボンネットバスを回すという意味ですねそしてボンネットバスを利用したお客さんに、経費をいくらか払ってもらおうような仕組みをとるということですね。</p>
田村	<p>そうです。</p>
佐藤	<p>観光コースですが、例えば1時間のコースの場合ボンネットバスを使ってどんなコースが考えられるんでしょうか。</p>
田村	<p>ボンネットバスは、バスの運賃として料金をとるということではできないものですから、やはりイベント的なものを使うことによって、その燃料代とかの必要な経費を支払うような方法をとっていったらと思っています。</p> <p>観光コースについては、今度は朝市なので朝の時間帯ですので、あまり長い時間のコースではなくて、近くの高寺院とか大王神社が近くにありますが、そういうのをベースに設定していったらと思います。</p>
佐藤	<p>4月23日の朝市は、8:00~9:00ぐらいから始まってお昼には終わるという形だったので、その時間帯の中でお客さんに乗って頂く。そしてボンネットバス自体では運賃としてはとれないので、先程言われた資料代、パンフレット代などでまかなわれたらということですね。</p> <p>食の提供部会と協同でやろうというお考えですが、山北さん、そのことは部会としても可能でしょうか。</p>
山北	<p>はい、大丈夫です。因みにまだ予定ではあるんですが、第2回の朝市を10月29日(日)</p>



	<p>に開催したいと思っています。じゃんじゃん皆さんが出店して頂けるように、皆さんにも協力して頂いて、皆で盛り上がっていきましょうと思いますので、宜しくお願いします。</p>
佐藤	<p>10月29日に予定してこれから準備に入って宣伝も多いにやっぴいこうということですね。こないだの朝市は1回目でしたので、村内の方が多く来られましたが、折角宣伝するなら、隣の人吉市とか他の地域にも呼び掛けることになりますね。</p> <p>逆に観光交流部会は、10月29日を目標に今から資料づくりだとかガイドの準備を自分達でもやるということになりますね。</p>
田村	<p>はい、そういうことになりますね(笑)</p>
佐藤	<p>次は、福祉部会の川内さんをお願いします。福祉部会は実は月に1度どころかかなりの回数で会議をやっておられます。私自身の事で恐縮ですが、去年はほとんどが夜の会議ですが、熊本から山江村に70回以上来ています。1年が52週ですから一週間に2回以上というのも何回かあったわけです。その中でも福祉部会は私も難しいテーマだと思っていました。福祉部会の場合、一つは幅が広くて子供からお年寄りまで全部を対象として考えるということと、それからもう一つは目に見える形が無いということ。例えば、食の提供の朝市といったら皆イメージがつく。観光交流でボンネットバスをどう利用するかなどというのは具体的に想像できて話がしやすい。しかし子供福祉とか高齢者福祉になりますと、考えていくことが哲学的なことみたいなものも入ってきたりして、話の中で何回も行ったり来たりすることがあったりしました。</p> <p>川内さんの先ほどの報告では、さらりと言われましたが、実はまとめていくのに相当の苦勞をしておられるはずですよ。そこで、川内さんにはもう一度、なぜ子ども食堂が必要と思われたのか、またなぜ高齢者の働く場が必要なのかを話して頂きますか。</p>
川内	<p>まず、高齢者の働く場の提供というのは一番大切と思うんですね。というのは定年を退職された方などが山江村内で働く場があれば、わざわざ人吉とか近隣の市町村に出て行かなくても、山江村で近くて働けるというそういう場があることによって生きがいを感じることができるのではないかと。すごく大きな目標なんですけど、実は以前、全部の部会長と書記の合同の交流会があって、その時内山村長と話しをさせて頂く中で「高齢者の寿命を延ばすのではなくて、健康寿命を伸ばしたい」と村長が熱く語っておられました。健康寿命というのは元気でいられる寿命ですね。今、日本の平均寿命が女性が80代後半、男性が80代前半と言われてはいますが、それマイナス10歳が大体健康寿命だと言われてはいます。その健康寿命を少しでも伸ばすためには、やはり一人ひとりの方が生きがいを持って生活できる場がないとひきこもってしまったらだとか、山江に関しては孤独死というのはあまり聞かないですが、やはり他者との交流や生きがいを持つことが健康寿命を延ばすことになると私も考えています。</p> <p>そういう働く場、なおかつ先ほどから話の出ている自分で収入を得る場、ただボランティアだけではなくてやはり自分で収入を得てそれを目標としていくことがいいんじゃないかと思っています。</p> <p>以前、部会の話し合いの中で、佐藤さんからも事例の話があって、「ある市町村で高齢者の総菜や漬物を作ったりするグループができた。その方たちの目標は年に一回でいいから仲の良い</p>



人たちで旅行に行きたい。そのために何をするか」から始まったそうです。そこで総菜なり漬け物なりを作った収益金をみんなで貯めてみんなで旅行に行く。さらにそのワンランク上の旅行に行くとか。旅行の回数を増やすとか、そういう生きがいが見つかったと。そういう風に持っていければなと思っています。

もう一点の子ども食堂は、私個人の考えではなくて妻からの提言がありまして、山江村でも核家族化が進む中で、両親共働きで子供一人でご飯を食べている。そういう家を一人でもなくしたいという話が妻からありまして、自分も確かにそうだなと思いました。我が家の場合は、祖父、祖母、私の両親と暮らしている中で、そういう孤食というのはないんですけども、やはり山江もそういう状況になってきているんじゃないかと思います。

これは難しい問題も多くあると思いますが、夢としては、折角「時代の駅」というのがありますので、ここを活用する中で、地元の農家さんから有償で米や野菜を提供して頂いて、食の部会とも連携していくと思いますが、そこで 500 円くらいの食材で食が提供できるのであれば、一人親だとかの子であれば、100 円とか無償とかそこは行政とのタイアップで多少なりの助成を頂きながらという格好になるのかなとも思います。またその子ども食堂で働く人も雇用ができてくれればなあと大きなビジョンを描いています。

とにかく、根本は子どもたちが一人でご飯を食べるというのをなくしたい。カップラーメンやお菓子だけで済ませるというのをなくしたいという思いから子ども食堂というのを目標として上げさせてもらっています。

佐藤

ありがとうございました。福祉という行政と非常に密接に関係してくるところも多いという印象が強く残りました。

さて、宮内先生、ここまで 3 人の部会長さんからの話がありましたが、これを受けて、1 つは「山江村の未来塾のこの村づくりの活動をどう評価していらっしゃるか」ということと、中でも「この 3 つの部会の活動に対して何かアドバイス等」が頂けたらと思います。

宮内

まず、わけのわからないことを始めたという（未来をつくるということはわけのわからないことに挑戦するという意）ことに敬意を表します。先ほど言ったように、経済活動をどうつくるかということはそんなに難しくない。むしろ地域社会のあり方をどう持っていくかということがやはり難しい、見えない話なんですね。そのときに集落単位でどうするのかあるいはもう一つ上の範囲でどうするのかという、山江村の仕組みをどうするのかといったことを、これだけの部会で去年の秋から半年余り、集まってとにかく議論をされた。そこからは新しい取り組みというのもすでに生まれたということで、やはりこれはすばらしい取り組みだと思います。そういうことに、基本的に敬意を表したいと思います。

例えば、食の部会の朝市は、出店料 500 円で 6,500 円を分けると一人 1,000 円ちょっとだけど、それでも価値のある稼ぎだということになるが、もう少しお店が増えるといいですね。

そこでけっこう売れた人、一番売れた人でどのくらい売ったんでしょうか。



山北	卵かけごはんが一番出まして、1食 350円で70人くらい売っています。
宮内	<p>ほう、じゃ何万円になるね。そうすると、1割ぐらい手数料をもらう方が売り上げが増えるということになる。普通、道の駅なんかでは、野菜が名前付きで出しているところなどは、1割から2割。2割のところもありますけど、そのようなことでやっていくというの、その内考えていけばいいかなと思います。</p> <p>それから観光部会が朝市と提携して一種のツアーをやりたいというのは、大変いい発想だと思います。その時にただ自分達が大事にしてきていて素晴らしいと思うものと、他人を連れて行って喜んでくれるかということの見極めは、佐藤さんなんかにも相談したがいい。そういうことのズレが結構あってですね、他人がみると別に面白いとも何ともない、ただそこにいい解説というかストーリーをうまくつけば喜んでもらえる。そういう工夫が大事でしょうね。</p> <p>ボンネットバスという割に珍しいものもあるわけですから。</p> <p>そういう提携というか、9つの部会が全く別々にやっているんじゃないかと相互乗り入れで何か縁がありそうなところで一緒になってやるというようなことに展開していけば素晴らしいなというふうに思いました。</p> <p>それから、福祉ですが、高齢者の働く場という言い方をされましたが、生きがいになるということがあれば、必ずしもそれが働くということでもなくてもいいわけですが、定年になってすぐ地元で頑張らなくちゃならないかというところは、あまり固く考える必要はないかと思いますね。人の事情によって色々でしょうから。</p> <p>例えば、漬物ということにしても、ある範囲の集落をまとめて農産加工所みたいなものをつくるというやり方というのはあるわけです。これも最近は、集落ネットワーク圏を確立するのに農産加工所を入れるというと、そういうソフト事業の中のハードということで交付金がもらえる可能性もあります。というように、あんまり個人々にアプローチするよりはグループをつくるような形の方が展開していくんじゃないか。一人でやるとなると尻込みしますからね。そういう印象を受けました。集落を超えて何かグループをつくるような話がそういうところから始められるかもしれない。</p> <p>子ども食堂については、理想的にそういうのがあればいいんだけど「時代の駅」までどうやって運ぶとかか難しそうですね。たまに日を決めて月に何回とかやるのはできるかもしれない。実際、そういうことをやっている町はありますが、その辺の工夫が必要だなと思います。</p> <p>いずれにしても、こうやって雲をつかむようなところで話が始まるんだけど、そうやって交通整理をする中で未来がみえてくるということだと思います。</p> <p>やりとりをしているうちに、あるいは佐藤さんがかなりつきあっておられて、そこでそれなりのアドバイスをされているんだと思うんだけど、とにかく工場を作って稼ぐ場所をつくらうという話の方がどっちかというところだと簡単で、こういういい社会をつくらうという話はやはり雲をつかむようなことなんです。しかしそういう意識で皆さんの中から“じゃ俺も部会に入れてくれよ”というような形で参加が増えていくと、そのうち村も予算がつけやすくなって、それぞれの部会の専門にアドバイザーに来てもらって話を整理してもらおうといったように、そんなふうに展開していくといいなと受けとめました。</p>
佐藤	ありがとうございました。私は熊本市内にいますが、74万都市の中で小学校が90くら

いありまして、その小学校区ごとに何かやろうとしても、この山江村の未来塾のような形で話し合いをして村づくりをするというようなことはまずできません。だから自分達でいい社会をつくろうと思って、やろうとすることをやろうと言って実現できる社会がここにあることですし、それは素晴らしいと私は思います。それこそが宮口先生が講演で話されました「都市にない田舎の価値」なんだろうと思っています。

今、一通り話がまわったところで今度は内山村長にお聞きしたいと思います。

村長自身が未来塾をつくろうと発想されて、去年立ち上がった訳ですが、今年で2年目に入りました。これまでの未来塾の村長自身の評価と、今後どんなふうにあったがいいかなど村長自身の思いも含めてお願いできますでしょうか。

内山

未来塾は「未来塾を立ち上げたい」と皆さんにお約束して選挙に出た経緯があります。約束させて頂いたというのは、実は山江村というところは、地域づくりの団体が多いとこだったと感じています。

例えば「ボンネットバスを走らせよう会」は、役場の予算は全く使わないで住民自らが自腹を切りながらトンテンカンテンやりながらバスを復活させた。そのことが先程の観光交流部会のボンネットバスを活用しようかという話に繋がっています。またケーブルTVのマロンチャンネルがありますがこれは村民の方がマロンTVというのを立ち上げながら自分達で企画して映して編集して役場が作っていた動画専用のホームページでずっと発信して続けて来られた。そういう活動の延長線上に今のケーブルTV、マロンチャンネルがあろうかと思います。その他、NPOのもとであった「風の会」ボランティアグループ、それから「万江川原流水リレー」というのがありました。万江川の水を八代海に動力を使わずに、要するに走ってか自転車かで八代海に届けるんだ、そして水の大切さを川下と上流でともに考えていこうということをやっておられましたし、それが今の「万江川塾」になっています。「ロマン探検隊」もはじめは野外活動研究会として立ち上げられたのが現在に至っています。



最近では「文珠会」として地域の人が「三人寄れば文珠の知恵」として活動もされているわけです。

そういうわけで、もう一度そういうように村民の皆さん方が、自分達のやりたいことを思いっきり自由に実践をしながらこの地域で楽しみ、活動してもらって稼いでもらいたい。これが実現していけばいいなということを考えて未来塾をつくりたいと思ったわけです。

役場としては本当は「金は出すけど口は出さん」というのが本当はいいのかなとまで思っているわけです。

これまでの話を聞いて私も少し感想を述べさせてもらいますと、色んな形でリンクというか連携がされてきているなと思います。観光ガイドを作るならば山江村検定みたいなものを作って、山江村検定ガイド何級みたいにするね。ツアーを企画するというのであれば、実は地域づくり研究所の高橋地域おこし協力隊は、総合旅行業の資格を持っていますから、お金を取れるツアー企画なんかもできるんじゃないかと思っています。こ

れもリンクしていろんなプログラムも作れるのではないか。例えば朝市とからめるのであれば、泊りがけの来て見て泊まるというフットパスもありますし、観光も農泊もあります。万江川、温泉センターに泊まってもらう、あるいは「時代の駅」に泊まってもらうというのもあるわけです。そういう泊まり掛けのツアープログラムも皆さん方で協力し合えばできるなど考えていました。

それから福祉の方ですが、一つは漬物づくりの件、実は「小さな産業づくり」の補助金というのはまだ生きています。5軒以上でいろんなことをやられるというのに対して、村が9割補助の90万までですから、100万円の予算に対して村が90万まで出せるので10万の手出しでいろんな産業づくりに使えます。また、地域をあげてというか万江川の流れてそういうようなことであれば、宮口先生からアドバイスをいただいた制度の事業を導入させて頂ければと思っています。

それと、これもまた連携ですが、子ども食堂は万江保育園が一生懸命やろうとしておられます。いわゆる田舎の子ども食堂ですから、貧困の子ども食堂ではなくて、子ども達と一緒にいる場をつくりながら地域をつくっていききたいという思いをもっておられるので、万江保育園の先生たちとまた一緒になってやってみるというのもあるかと思っています。

いずれにしても、本当に皆さん方の熱心な動きに感謝致しております。先程も地域づくり団体の話をしましたが東浦の方では、東浦太鼓踊り、これは一時期なくなりましたが、山江の中学生が太鼓踊りと扇踊りをずっとしていた時代がありました。これがここに来て復活してもう7年目になると思いますが、昼は仕事をしながら夜な夜な臼太鼓の練習を頑張ってもらって、先月東京の丸岡会と関西の丸岡会で披露されまして賞賛をあびてもらいました。それを地域をあげて応援しようじゃないかということで、臼太鼓踊りに焦点をあてた東浦臼太鼓の夏祭りというのを開催されました。これを含めて、地域にある息吹き墓というこれは百日咳の神さんがまつってあるところですが、そこも整備しようじゃないかという動きもできてきた。そういう一つひとつの動きが山江村を作っていくんだろーと思っていますし、皆様方のその動きが本当に大きな実践運動となってくることが力強い山江村というかシンポジウムのタイトル通りに「誰もが元気で楽しく暮らしやすい村」ができていくんだろーと思っています。大変夢を広がらせてくれるわけがあります。そういう思いで、口は出さんけど金は出すという姿勢で、また皆さん方の活動をしっかり応援させて頂けたらと思っています。

佐藤 ありがとうございます。パネラーの方5人に一通りお話ししていただきました。ここで、会場の方から何か質問ですとか意見などありますでしょうか。宮口先生はなかなかつかまらない先生ですので、宮口先生への質問とかでも結構です。

会場 久保山と言います。田村さんに山江の語り部みたいなものを何とか引き受けてもらえないだろうかという希望です。というのは、円蔵の石（えんぞうのいし）、これは昔人吉城の東側の玄関口に作った石なんです、その話とか、矢瀬主馬佑（やぜしゅめのすけ）とか平川次郎藤高（ひらかわじろうふじたか）とかの大王神社の経緯なんかをもう少し踏み込んでもらいたいと思っています。それでぜひ、田村さんに語り部の一つのグループの主になってもらいたいというのが私の希望です。



佐藤	田村さん、ここで何もしゃべらないというわけにはいきませんね（笑）田村さんご指名です。
田村	<p>えーっと、私は学芸員でも何でもありませんが、ただ昔祖父達から聞いてきたものをずっとやっているんですけども、やはり観光客がこれからたくさん来られる場合に対応するには、案内人の育成は本当に大事だと思っています。</p> <p>それで若い人たちがもう少しこのグループに入っていていただいて観光の勉強会もやって頂いて、私達でなく本当の学芸員さんたちも入ってもらって案内人の育成をやってもらったらと思います。</p>
佐藤	<p>はい、ありがとうございます。田村さんは、今控え目に言われましたが、観光交流部会では結局最後まで自分でしゃべって元気にやって下さいますので、我々も心強い限りです。</p> <p>観光交流部会でも一番の悩みは若い人をどう引き込むかです。それから村長が先程言われましたが、山村には昔から地域づくり団体が確かに多い。でもその方たちも私を含めて年齢的にずいぶん上がってきまして、今回もやっぱりその当時やって下さった方が入って下さっているのだから続いているという感じが私はしています。未来塾の大きなテーマの一つとして、やはり若い人をどういう風に入れ込むかということが課題になっています。山江村は 3,500 人くらいの小さな村ですが、実は今回、この部会とは別に若い人だけで集まる会をつくりました。活動報告の中で地域づくり研究所の川口さんが話してくれましたが、この若い人たちが 20 人くらい集まってくれました。実はその時のキーマンが何人かいて、彼等に話しますと、今はみんなスマホを持っていますのでライングループをつくっていたりして、集まろうと思えばすぐ集まるんですね。その中のキーマンの一人が今会場に来てくれていて、中竹浩之さんといいます。中竹さんは実はケーブルTVの岩崎清佳さんと一緒に、この冊子（山江村のイラスト入り広報誌で会場配布）を作ってくれた方です。これは、以前交流会の席で中竹さんが東京にいた頃自分が仕事として描いていたイラストをスマホで見せてくれていて、私がこれは何とか活かすことができないかと思っていたのですが、今回村長から「ある日の山江村」をテーマに冊子を作ってくれないかということがありましたので、私が川口さんに相談して彼等をお願いして出来上がったものなんです。やはり、彼が東京で培った自分のやりたかったことをこの村で実現する一つの契機になればと思ってやってみたんです。中竹さんは、観光交流部会にも入ってくれています。先般の会議の中でも彼自身も若い人にもっと入ってもらうにはどうしたらよいかと悩んでいるということでした。ここで、中竹さんにも話してもらいたいと思いますが、若い人が入ってくれるようにするには我々はどうすれば良いか、何を变えていけばよいか、中竹さん自身の思いを話してくれますか？</p>
中竹	<p>私が考えていたことを話しますと、若い人たちと話すときやはり一人一人それぞれが自分達が村に住んでいてやりたいこととか将来こうしたいなと思っていて、それを飲みながら話し込んだりすると、いろんな意見が出てきます。それを観光交流部会とか未来塾に方にもってきても、昼間はなかなか仕事で忙しかったり、集まっても会議ではやはり言いきらんという人が多いものだから、未来塾とは別のグループとしてたまに集まってそうやっ</p>



	<p>て意見を出して、その意見を自分が持ち帰って今後の未来塾や部会の方にも活かしたらいいなと考えています。今後観光交流部会として田村さんを中心にボンネットバスを使った観光ツアーをまず実現させて、その後に自分と同世代の若い人達の意見を取り込んで若い人たちの背中を押して参加者を増やしていけたらと思います。</p> <p>自分としてできることは、SNSを利用して自分が聞いた意見なんかを代弁することも可能なんじゃないかと思いますし、あるいは誰かが若い人の代表として自分に代わって言ってくれたら、それはそれで皆さんにアピールできるのではないかと思います。</p> <p>今回、自分が参加してみているいろんな考え方ができると思いましたので、自分を含めて若い人たちとどんどん意見を交流する意味で、観光交流部会の交流という形で年配の方たちと若い世代の人たちをうまく交流させることができたらと感じました。</p>
佐藤	<p>ありがとうございます。今、中竹さんが言いましたように、若い人たちと話をするとき、今回これもキーワードになると思いますが、やはり飲み方をするというのがあると思います。</p> <p>なかなか昼間は仕事で難しいですし、夜集まってもらってもそこで何かのテーマみたいは何々を考えるとかなってしまふとそれだけで尻込みしてしまう。むしろ何かわからんけど飲みながら自由に意見を言ってみようと呼びかけたら 20 人くらい来てくれたんですね。</p> <p>観光交流部会の方の交流ということで、今後やってみようよと中竹さんに話をしています。これを村内の 16 行政区として地区ごとにやりますとやはり近すぎて先輩方になかなか言えない。そこで地区を取り払って世代間で交流するという意味で、若い世代と年配の方々の交流の機会を作ろうと思っているわけです。その時、是非皆さんにお声掛けをして、若い人の意見を出してもらおうと、観光も万江川とか自然をいっぱい活かしたアクティブな観光みたいなことができてるんじゃないかと思っています。さて、他に会場からご意見やご質問はありますか。</p>
会場	<p>城山と言います。昔、私が 30 歳前後の頃、人吉市内で飲んだ後、ラーメンを食べに行ったんですが、その時観光客の人だと思んですが「人吉・球磨に何かいい所がありますか？」と聞かれた時に私が「こぎゃん田舎で良かこのあるもんですか」と言ってしまったんです。その時にその人が「あなた、人吉・球磨を全然知らないでしょ」と言われて、私はすごく恥ずかしい思いをしました。そこで、観光交流部会の方が先程観光パンフレットを作ろうとおっしゃいました。やはりそれを確実にやってほしいと思います。これを球磨人吉全体に広めてもらおうと、若い人たちがそれをみて勉強して観光客の人たちにもここがいいですよと言えるようになり、それを山江から発信してもらいたいと思います。私はその時ラーメン屋から出てタクシーに乗るまで「何でそういうことを言ったんだろう」と一生懸命反省しましたので反省を込めてお願いしたいです。</p>
佐藤	<p>具体的などともいい意見を頂きありがとうございました。田村さん、また出番がきました（笑）パンフレットの話が出ましたが、以前田村さんは村の人たちがあまり村内のことを知らないと言っておられましたので、その辺りも是非お話してください。</p>
田村	<p>私は合戦の峰地区に住んでいるんですが、合戦の峰の観音さんが日本遺産構成文化財の</p>



	<p>一つになって、また三十三観音廻りでたくさんの方が来られるようになりました。皆さんにおもてなしとしてお茶の接待をする時に、毎日行って話をするんですが、なかなか通じらんですね。やはりパンフレットが必要ですね。また、パンフレットもあんまり詳しく年号を入れて説明すると嫌になりますし、できるだけわかりやすい簡単な方がいい。また、観光客の方も専門に歴史に詳しい方は年号なんかもないと安心されませんが、一般の方は、ただそこで聞いていかれるだけですから、そういう簡単なパンフレットを部会の方でもこれから検討してみたいと思います。</p>
佐藤	<p>私も観光交流部会のメンバーと一緒に、焼酎墓というところや先程村長が話された息吹き墓、山田ここじょ、山田伝助さんの墓に行きました。山田伝助さんの墓は行って初めて墓が3つあるということも知って驚きました。山田ここじょの話も面白かったんですが、焼酎墓は墓の形がユニークなんですけれども、そこでは田村さんが「山江には焼酎バカ（飲んだくれ）がそこかしこにおる」と言われたんですね。（笑）</p> <p>詳しい話を聞くよりも、そういう話の方が聞く方としては印象に残るんですよ。息吹き墓は祠なんですけど、そこを見に行ったらその後、地域の方がそこにノボリを立ててきれいにされました。</p> <p>だから見に行くと地元の方もうれしいからきれいにされるといって、村がますますきれいになっていくという、いい循環が生まれつつあるんじゃないかなと思います。</p> <p>是非、そういう機会をみんなが逃さないようにやっていけば、本当に住みやすく楽しく元気な村にできるんじゃないかと思います。</p> <p>折角ですから、部会長の川内さん、山北さんにももう一言ぐらい何かご意見を頂きたいと思います。川内さんいかがですか？</p>
川内	<p>えーと、私も焼酎バカなので・・・（笑）</p> <p>さっき話をした中で、宮内先生と村長の方からものすごく心強い言葉を頂きましたので、是非次回の部会にこれを持って行って話し合いの場を設けて新しい方向に向かって、芯をぶらさないようにやっていきたいなと再認識したところです。</p>
佐藤	<p>ありがとうございます。では、山北さんお願いします。</p>
山北	<p>昨日ふと思ったんですが、この未来塾を3年後のオリンピックにからめて山江村をアピールすることとかできませんかね。勢いに乗ってじゃないけど、そういうことができますか。</p> <p>今、村でゆるキャラを募集していますが、それもオリンピックにからめて何かできないかなと。</p>
佐藤	<p>それは内山村長に最後にお話ししていただきましょうか。その前に一通りまわりましたので、宮口先生一言お願いします。</p>
宮口	<p>あの最初に言いましたが、やっぱり居酒屋がないのがいかん（笑）</p> <p>簡単なことで、おばちゃんがここに10人ぐらいいれば、私やろうかしらという人が出るかもしれない。未来塾か地域づくり研究所主催で月に一回飲み会をするとか、どっかを使って。そうするとだんだん面倒になって、じゃお店は誰かやった方がいいんじゃないかっていうことになるかもしれない。やっぱり先ほど若い世代がたまにそうやって飲みながらやっているというのは、ものすごく大事なことです。</p> <p>小国町が一番輝いていた頃は、ほとんど毎晩飲み会でした。そこに遠くから来た私達</p>

	<p>のようなものが加わるわけですよ。そうすると謝礼を一銭も払わなくても話が聞けるわけです（笑）</p> <p>そういう会がある地域の方が栄える。それで面白いからまたのぞきに行こうかという人が出てくる。そういう所へ多少お年をとっていても、たまに若い奴にかかわろうかという人も出てくるかもしれませんね。これは、行政が居酒屋を始めてもいいかもしれません。焼酎バカが多い地域ですから（笑）</p>
佐藤	はい、ありがとうございます。それでは村長お願いします。
内山	<p>オリンピック誘致に合わせて何かという話ですが、今海外から年間 2,000 万人ぐらいの人が日本に来ていて、外に出ると中国人や韓国人ばかりみたいになっていますが、これはオリンピックの時には 4,000 万人ぐらい来ると言われていますので、まわってこっちにも来ると思います。そこで今日、宮口先生が講演の時に言われた「技の蓄積は人間論的価値がある」という私はこれだと思うんです。やっぱり外国の人が来て何が面白いかというと、日本人の技の蓄積が面白いんでしょうし、さっき語り部という話がありましたが、語り部が語る言葉もまた技の蓄積なんだろうと思います。では、技の蓄積は一体どこにあるんだろうかと私なりに考えると、それぞれの家庭の中にあるというような気がします。家庭の中、衣食住の感じ方もずい分と無くなってきたと思いますが、もう一回そういうことを見直す必要があるだろうと思います。そうすると、将来的には農家民泊につながる、それができていくようになるとオリンピックでも人を受け入れられるということになっていくかもしれないと思います。</p> <p>ただ、それまでにはもちろん栗のゆるキャラもやりますし、今度山江栗がパリに行って、マロンはフランス語だそうですから、フランスの人は良く栗を食べるそうですので栗をよく食べる国に行って和栗のやまえ栗を食べてもらってどうなのかというのを見てみたいと思います。</p> <p>うまいと思ったら、「モモ、クリ植えてハワイに行こう」ではありませんが、「クリ、ユズ売ってパリに行こう」というようなことも言っているのかなとか、ちょっとまだ早いのかなとも思いながら、そういう誇りだとか夢があるのかも合わせてやっていけたらなと思っています。</p> <p>居酒屋の話がありましたが、こちらから見て一番ニコニコ聞いておられた東さんあたりが始められそうだなという気もしております。（笑）そういう楽しい場の提供、パブの提供も本気で儲かる仕事としてやっていけることができればまた面白いかなと思います。</p> <p>パン屋をつくるにはUターンの話もありますが、松本さんの娘さんは大阪で代議士秘書をしています、実はベーカリーのパン屋が本職でありますから、早く帰ってきてパンをつくれというような話もしているわけですけど、そういうことがいっぱい起きるような楽しい元気な村になればいいと思っています。</p> <p>それから、もう一つ、意見は出るけど訳のわからんことを一生懸命言っているというのは、真にそうです。私も自問自答しながら毎日訳のわからんことを一生懸命頭の中でしゃべっています。ただある日突然、ふっと政策として思いついて担当の職員に言いますと、担当の職員は嫌な顔をしますが。（笑）そういうことの繰り返しだと思います。</p> <p>そういう意味のわからんことをお願いしているつもりはないんですけども、ある日突</p>

	然パッと何か開けるということにつながっていくことが必ずあると思いますので、どうぞ今後とも宜しくお願い致します。
佐藤	ありがとうございました。ちょうど予定の時間となりましたので、この辺で終わりにしたいと思います。それでは最後に、忙しい中に出席して頂きました福祉部会の川内さん、食の提供部会の山北さん、観光交流部会の田村さん、そして早稲田大学の宮内先生、内山村長に、もう一度拍手をお願いしまして終わりにしたいと思います。 どうもありがとうございました。(拍手)

(敬称略)

4. 未来塾村づくり部会の活動と課題

山江村未来塾村づくり部会は、平成28年度の9月から9つの部会ごとに活動を始め現在に至っている。それぞれの部会の現在の活動内容と本年度の成果目標については、表1にまとめたが、現時点での各部会の特色と課題を述べておきたい。

【集落営農・地産地消部会（若手農業者）】

集落営農・地産地消部会（若手農業者）は、高齢者と若手農業者の一緒の会議から、思い切って若手農業者による部会活動を中心に進めている。ともすれば膠着しそうな農業問題の議論を離れ、若い農業者による新たな村づくり活動が、彼等の描く将来の農業へのチャレンジにつながればとの期待が強い。若者同士が集まって共同栽培に取り組み農作業の出荷に結び付けるために、現在は土地探しから始めているが、若手農業者の絆が深まり共同栽培、共同出荷が将来実現すれば、村に新たな農業グループが誕生することになる。長い目でみた活動への資金及び技術面での指導・助成が必要と考えられる。

【やまえ栗ブランド部会】

やまえ栗ブランド部会は、村行政が進めるやまえ栗のブランド化に向けた様々な活動の中で必然的に発足した部会と言える。村有数の栗生産農家と加工・販売者が集う会であり、活動すべきテーマと内容が当初より明確である。現在は、品質管理と栽培管理の向上のために「栗栽培マニュアル」の作成に取り組んでいる。どのようにすれば唯一無二のブランドになることができるのか、行政と村民が一緒になって実現すべき課題であり、部会としての自由な発想にもとづきながらも、内容によっては行政と連携した活動が不可欠となってくる。このため、必要に応じて役場担当部署からの会議出席を依頼しつつ進めていくことが求められる。

【観光・交流部会】

観光・交流部会は、山江村の豊かな自然と歴史をベースに基幹産業である農業と温泉施設や文化施設等を結び付けた山江村らしい観光交流の礎を築く母体となる部会として位置づけられよう。第2回のトキの朝市では、ボンネットバスを活用した観光・交流ツアーを企画し実施しており、今後も回を重ねていくことで山江村の新しい観光として評判を得ていくことになるものと期待できる。しかし、現在までは部会長ご自身のこれまでの実績と知識によるところが多く、部会としても課題として上がっている観光案内ガイドの育成が喫緊の課題である。観光ガイドの冊子作成に併せて、メンバーの一人ひとりが積極的にチャレンジしていくことが求められる。

【食の提供部会】

食の提供部会は、女性を中心にしたメンバーによる部会であるが、発足以来約1年で2回の朝市開催を実現している。部会では当初より朝市の開催を希望しており、部会の活動が少しでもみんなの利益になって元気になるようにという強い思いが朝市を形にし

ている。また、朝市の会場が「時代の駅むらやくば」であることで参加者のトイレの利用や食事の提供ができたことに加え、農家の出店を軽トラにしたことも、比較的早く朝市の実現を可能にしたと思われる。今のところ、メンバーからは年に3~4回の開催が限度という声が多いが、朝市を定着させていくには、「毎月第〇日曜の朝」というように少なくとも月一回の開催を実現できないかが検討課題の一つと言えよう。2回目の朝市は、観光・交流部会と福祉部会が参画した協同の朝市を実現していることから、未来塾9部会が一つになって朝市の出店に協力していくことになれば、月毎の開催も実現可能になるのではないかと考える。

【情報発信部会】

情報発信部会では、山江村の新しいPRビデオの作成に取り組んでいる。現在までに、撮影は終了しビデオの編集も概ね進み最終チェックの段階にきているところである。完成品はケーブルテレビで放映が予定されている。PR動画の作成は、部会の話し合いの中で、地方への移住を希望する人に、山江村の良さを知ってもらうための手段としてケーブルテレビと連携したことが実現の契機となっている。もとより部会のメンバーは、村づくりにおける情報発信の重要性を理解する人ばかりであり、すでに次の展開が期待される場所である。一方、情報発信部会には、自身を含む村づくり9部会の情報発信の核づくりを期待するものである。これがためには、例えば9部会の部会長及び書記の合同会議を開催し、情報発信部会が核となって通信ネットワークを形成し、情報収集を定期的に得ながら外部に向かって情報発信する仕組みを構築していくことが課題となると考える。

【環境・防災部会】

環境・防災部会は、村内の豊かな自然環境を活用して子どもから大人までが身近に楽しめる運動施設を建設し、村の元気づくりを進めたいという思いで活動している。現在は、村内にボルダリング施設を作りたいということで、建設場所を検討する一方で、他市の施設見学を計画しているところである。いわゆるハコ物建設を伴うため、建設に係る費用やその後の運営等の問題が先立つこともあり、実現までに解決すべき課題も多いと言える。しかし、本年度からすでに実施しているが、山江村総合公園基本計画の具体化の一つとして行政と連携して進めることができれば実現できる可能性もあると考えられる。また、このままスポーツによる村づくりを進めるのであれば、健康・スポーツ部会と一緒に活動していくことも考えられる。互いの部会が連動することで新たなエネルギーが生まれることが期待される。

【福祉部会】

福祉部会は、発足当初より「高齢者福祉」と「子ども福祉」の2つの大きなテーマを掲げている。福祉の分野は、誰もがその必要性を認める場所であるが、実際に住民自らが具体的に取り組むとなるとテーマが大きいゆえに第1歩を踏み出すことが難しいものである。部会でも様々な議論を踏まえ、まずは高齢者の元気づくりという視点から第2回のトキの朝市への出店を実現させている。今回は部会のメンバーだけによる出店と

なったが、今後は老人会を始めとして高齢者自らが自分達の店として参加するようになることを目指して活動していくことになろう。また、「子ども福祉」に関しては、現在、万江保育園において子ども食堂が検討されていることから、部会としてもこれに協力していくような体制ができれば、2 つ目のテーマに取り組むこととなる。行政とも連携して実現の一步を踏み出せるよう期待するところである。

【健康・スポーツ部会】

健康・スポーツ部会は、「健康づくり」と「スポーツ」の両面による村づくり活動を目的として始まっている。現在は、「健康づくり」の観点から誰もがわかりやすい救命法としてコント風のビデオをつくり、それをケーブルテレビで放映することで村民の健康づくりの一助としたいとの思いから、動画の作成に取り組んでいる。この他、軽いダンスを通して健康づくりに取り組んでもらうための「健康ダンスビデオ」の案もあり、今後もケーブルテレビを活用した様々な取り組みが期待される場所である。一方、「スポーツ」に関しては、まだ具体的な動きが見られない。案としてはビーチサッカーの普及を目指してサッカー場を建設したいとの構想が出ている。山江村総合公園基本計画や環境・防災部会が進めようとしているスポーツ施設のこともあることから、部会同士が連携して「村民の健康・スポーツづくり」に取り組んで頂きたい。

【文化・教育部会】

文化・教育部会は、山江村に伝承されている「花まつり」を題材とした「絵本づくり」に取り組んでいる。着実に検討会を重ね、現在は全体のストーリーができ、次の作画の段階に入ったところである。絵本に関しては、部会メンバーによる子どもたちへの「読み聞かせ」の実績や「やまだの伝助さん」の紙芝居など、これまでの活動が基礎となって実現へと結びついたものである。山江村の文化や歴史に対する愛着とそれが伝承されている村民の誇り、さらには次世代を担う子ども達への深い愛情が感じられる部会であり、絵の第2弾も是非検討して頂きたい。なお、絵本「花まつり」は印刷本として出来上がる予定である。

以上のように、9 つの村づくり部会は、内容も進捗状況も違いつつ、しかし確実に活動が続けてきている。これも、山江村が提唱する村民自らが参画する村づくりの一環として村行政の下支えがあつてのことだが、今後は、部会活動の内容に応じて村行政の担当部署から職員も参加して一緒に検討していくような体制づくりが必要と考える。一方、村づくり部会にあつては、部会の活動内容に対して互いが協力し合う体制づくりが必要である。部会は任意のものであり、部会の名称にこだわることなく、活動内容を充実させつつ、真に村民自らが考え行動していく住民組織として発展して頂きたい。

表1 平成29年度 未来塾村づくり部会 活動内容と成果目標

部会	活動内容	成果目標
①集落営農・地産地消部会（若手農業者）	・若手農業者が中心となって、村内の休耕地を活用し、作物の共同栽培の実現に取り組んでいる。	・共同栽培をしながら若手農業者の絆を作る
②やまえ栗ブランド部会	・栗のブランド化の課題である「品質管理」「栽培管理」「後継者問題」を柱として、まずは栽培マニュアルを作成し、次にやまえ栗の定義や栗の認定農家、収穫量アップなどのテーマごとに取り組むこととしている。	・栗栽培マニュアルの作成とその具体的活用
③観光・交流部会	・観光交流ツアーのプログラムを作成し、栗狩りツアーや朝市と連携した隠れ念仏ツアーなどを実施し、受入れ体制づくりに取り組んでいる。	・観光ガイドの育成 ・朝市やフットパス、栗祭りとの連携した活動
④食の提供部会	・「トキの朝市」の2回目を10月29日に実施。台風の影響を受け来客数は少なかったが、新たに観光交流部会によるツアーや福祉部会の出店もあるなど、朝市の体制づくりに取り組んでいる。	・朝市の継続と実施体制づくり
⑤情報発信部会	・山江村をPRするためのビデオ作成に取り組んでいる。作品はケーブルTVでの放送を予定している。	・山江村PRビデオの作成 ・村づくり部会活動の広報通信
⑥環境・防災部会	・山江村の総合公園基本計画の具体化の一環として、ボルダリング等のスポーツ施設の建設に向け、場所の選定や熊本市の施設の見学などを行っている。	・総合公園基本計画と連動した具体的活動と実施体制づくり
⑦福祉部会	・「高齢者福祉」と「子ども福祉」を大きなテーマとしつつ、まず高齢者の元気づくりを目的に「トキの朝市」に出店し、高齢者の手作り作品や加工食品等の販売に取り組んでいる。	・朝市の参加による高齢者福祉活動の実施
⑧健康・スポーツ部会	・村民の健康づくりを目的に「わかりやすい救命法VTR」の作成に取り組んでいる。作品はケーブルTVでの放映を予定している。	・心肺蘇生法ビデオの作成 ・健康ダンスビデオの検討
⑨文化・教育部会	・村内に伝承される「花まつり」を題材として「絵本」作成に取り組んでいる。作品は印刷本として保存と普及に活用する予定である。	・絵本「花まつり」の作成

5. 山江村地域づくりの今後の方向

山江村未来塾の9つの村づくり部会は、平成28年度に発足したばかりであるが、旧来より山江村では多くの地域づくりグループがあり、現在も活動を続けている団体も少なくない。今回できた未来塾の村づくり部会は、これまで何らかの形で地域づくりに携わってこられた方達が、改めて未来塾に参加し、もう一度新たな地域づくりを始めようとする思いが無ければ一年目にしての発足は容易ではなかったように思われる。山江村の地域づくりのシンボルとも言える「ボンネットバス」や「かちやりんく」「万江の里」「グリーンツーリズム協議会」「万江川塾」「おはなしの会」「時代の駅むらやくば」「山江温泉ほたる」「物産館」「フットパス」など、その時代に応じて地域づくりに多くの村民が関わり、活動が続いてきているのが山江村の他にない誇りであると言える。

このような村の財産とも言える人材からなる地域づくりグループを、より村全体の元気づくりを活かしていくにはどのような体制でどう運営していくことが望ましいかが、村行政と地域づくり研究所に課せられた大きな課題である。以下では、この課題解決に向けた方策について具体案を述べてみたい。

図1は、山江村が取り組む必要のある「観光・交流を柱とした地域づくり」について、官公庁が提唱する観光DMO（Destination Management Organization）を参考に、その山江村版として図化したものである。山江村観光DMOの目的は、「山江村に係る人・モノ・情報の基盤をもとに、村民自らが参画した交流ネットワーク組織を築き、村内外の多様な人材と関係機関が連携した観光・交流を実現させ、地域経済を活性化すること」である。

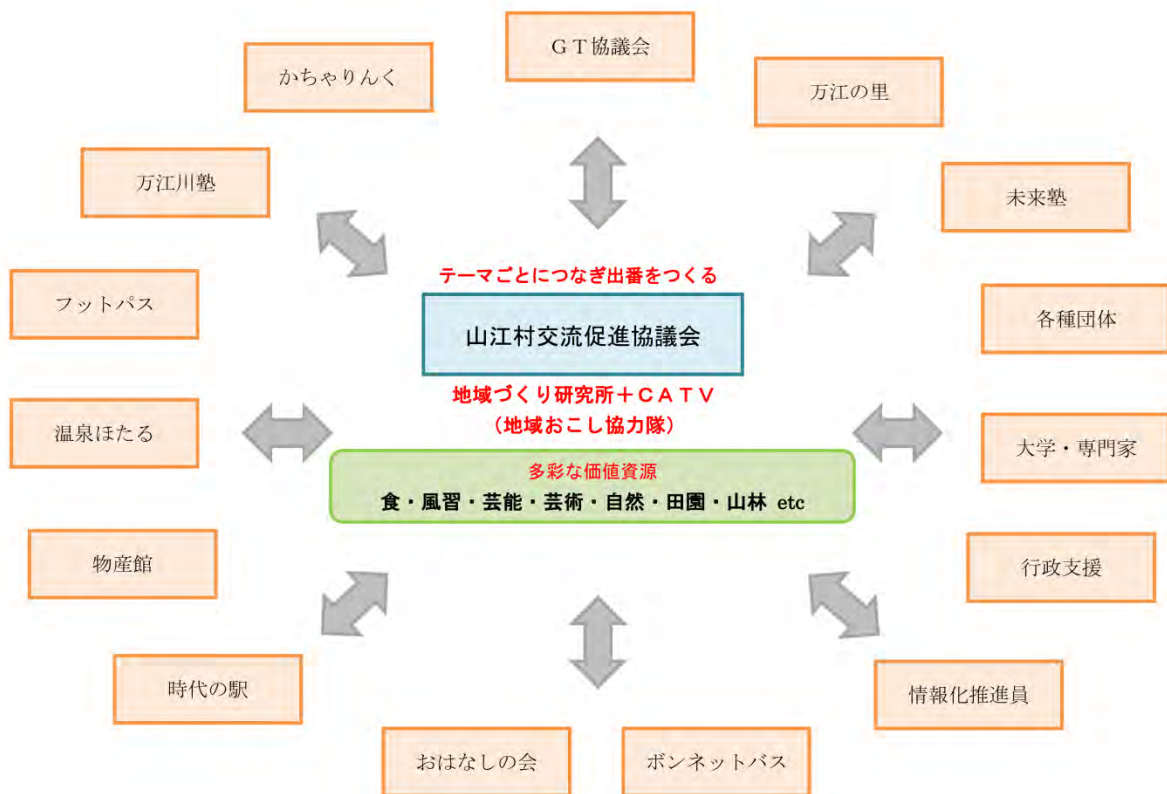


図1 山江村交流促進協議会（山江村観光DMO）

この目的に向かって、図1にあるような地域づくり団体や関係機関が互いに参画して「山江村交流促進協議会(仮称)」を発足させ、その核となる事務局に地域づくり研究所と山江村CATVを配して、村内の多彩な資源を活用した観光・交流のテーマをつくり、そのテーマごとに関連する地域づくり団体に活躍する場を設けていくことである。

例えば、未来塾の「食の提供部会」が開催する「トキの朝市」に「観光・交流部会」のボンネットバスによる観光ツアーや「福祉部会」の出店があったように、「朝市」というイベントをテーマに関連する地域づくり団体を参画させ、お客を増やし消費の拡大を図ることである。

図2は、山江村の経済活性化の考え方を表したものであるが、考案にあつては、京都嵯峨芸術大学桑田政美氏が提唱する「地域づくり」の考え方(地域づくりとは、地域の人々が誇る様々な価値資源を保全しつつ、持続的に利用しながら地域を発展させていくこと)をベースに山江村の現状を踏まえて図化している。

山江村の場合、経済指標の一つとなる市町村民所得(市町村内総生産額GDP)は全国でも下位に甘んじている状況が続いている。この状況を打開し、村民の所得向上を具体的目標(KPI)に置き、山江村交流促進協議会(山江村観光DMO)を発足させ、その運営に取り組まれることを提案したい。図2に描くように、山江村の経済活性化を図るために、「住民参画のもとで、地域固有の資源を生かした観光・交流を実現し、交流人口の増大によって消費を拡大し、地域経済を活性化する」ことが、今後の山江村の地域づくりの基本的方向と考えるものである。

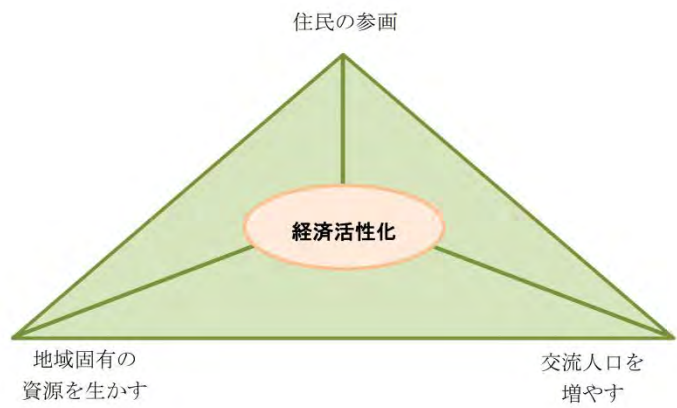


図2 山江村の経済活性化

部会の活動記録（資料）

<p>主題・参加者</p>	<p>主題 : 具体的活動について</p> <hr/> <p>参加者名 : 秋丸大輔、上村憲弘、村坂佳大、松本聖司 記録 佐藤</p> <p style="text-align: right;">計 4 人</p>
<p>内容 (記録)</p>	<p>検討事項の概要</p> <p>【ハウス栽培】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このグループで協同して、具体的な作物を作るとすれば、ハウスが必要と思う。佐賀県でアスパラを作っている所に研修に行くので、アスパラを含めて何がいいか考えてみたい。 ・アスパラは、物が育つまで3年はかかるので、他の作物を併せて検討する。露地も一緒にやるのがいい。 ・自分の仕事もあるので本当は冬期(1~3月)がいいが、冬から始めるとしても、早い内に土地(畑)を借りておこう。 ・一年間で1万円/反くらいだが、村からの補助20万円をうまく活用して、借地代やビニール代くらいは準備できると思う。できるだけ、どんなふうにするか予算をまとめて算出しておくといいと思う。 ・ハウスの骨組みは、自分達で何とかするとして、場所は別途みんなで探してみよう。(8月19日(土)15:00~に決定) ・先の話だが、物が出来たら、東京や関西丸岡会を顧客にできるように、自分達のとれたて野菜の直売もいいと思う。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分達の野菜なんかを提供する居酒屋も面白いかな。 ・場所はケニアハウスが最適! ・“グループ名”をそれぞれ考えておくこと。 <div data-bbox="646 1137 1177 1532" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">平成 29 年 7 月 27 日 会議の様子</p>
<p>次回の内容・日時</p>	<p>8月19日(土)15時~ ハウス栽培の土地探しプラス飲み方</p>

<p>主題・参加者</p>	<p>主題 : ハウス栽培の土地探し</p>	
	<p>参加者名 : 上村憲弘、村坂佳大、松本聖司</p>	<p>計 3 人</p>
<p>内容 (記録)</p>	<p><共同栽培を実現するため、候補の休耕地を見てまわり土地を探した></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">平成 29 年 8 月 19 日 候補地を見てまわる</p>	
<p>次回の内容・日時</p>	<p>11 月 30 日 (木) 今後の展開について (予定)</p>	

<p>主題・参加者</p>	<p>主題: 栗生産のコツの内容検討</p> <hr/> <p>参加者名: 久保田武久・勝原星四郎・中竹隆博・田山雄貴・豊永高希</p> <p style="text-align: right;">計 5 人</p>
<p>内容 (記録)</p>	<p>久保田部会長挨拶 ・どうすれば生産者の意欲が上がるか。</p> <p>栗生産のコツ</p> <p>1月堆肥 ・鶏糞はやりすぎに注意。牛糞(堆肥)はやるだけやってよい。有機堆肥はしっかり必要。 ・堆肥は木から少し離し、雨などで流れるので斜面の上側に6割、下側に4割ぐらいでまくのがコツ</p> <p>2月元肥 ・肥料は木から少し離れたところに円を描くようにまく。</p> <p>2月植付 ・1㎡に掘り、石灰と土を混ぜる。→根がよく張る(土壌改良剤になる) ・原野に植えると立ち枯れも発生せず収穫量も良い(全伐した土壌) ・立ち枯れが出てくると新しく植え付けする。 ・初めて植えるときは受粉樹を全体の2割植えると良いとされている。</p> <p>3月接木 ・収穫量を上げたいなら品種は「筑波」 ・「筑波」や「丹沢」を植えても成長しないときは「利平」を植えると良い ・台木を「利平」(虫に強い)にして別の品種で接木すれば虫に強くなる。 ・「つくば」に「利平」を接ぎ、さらに「つくば」を接ぐと最強(3段接) ・早生と奥手を同じ畑で栽培すれば収穫しやすい。 ・自家苗を作るのはお金を使わないで良い。ただし、どの品種も、実を植えて成長した苗は「山栗」になる。その苗を「実生苗」と呼び、「実生苗」に自らが栽培する勢いが良い栗の枝を接ぐ。</p> <p>5月草刈り ・イタリアン(牧草)を植えると冬に伸び、夏に枯れるため雑草防止に良い。 ・イタリアンが枯れた後は、虫が出るため根元は刈ったほうが良い。 ・草刈は年間通して行う。5月は刈っておかないと草が栄養を奪ってしまうので収穫が減る。 ・モア(草払の機械)はキャタピラだと斜面で滑る。 ・手持ちモアだと刃が先端にないと危ない。(後方に近づくともしもの時に逃げれない) ・モアの刃は円盤型よりハンマーローターが楽。</p> <p>7月追肥 ・実を大きくするために必要。ふりすぎは良くない。</p> <p>収穫 ・その場で身だけ取っていくのは腰を痛めるうえに、時間がかかる。 ・イガのままカゴや袋に収穫し、ある程度集めた後に栗むきの手袋を使ってむくと楽。</p> <p>選果 ・選果は水に浸けると未熟果が浮くので見分けやすくなる。 ・水に浸すと栗を拭いたときにキレイになりやすく、そうすることで虫も見つけやすくなる。 ・選果する際は昼光色の蛍光灯が自然の光に近く、色などの判断ができる。 ・蛍光灯は選別台から高さ1mくらいにすると果実がよく見える。</p> <p>出荷 ・出荷する際にアルミホイルを上にかぶせると鮮度が保たれる。</p> <p>保存 ・むき栗は冷凍する際に、以前むいた栗と混ぜると腐るので、絶対に混ぜない。 ・「利平」と普通品種と一緒に保存すると腐る(カビが生える)。 ・穴をあけたビニール袋に入れ、水分が逃げないようにして新聞を入れて冷蔵(1℃)すると約2ヶ月は鮮度を保つことができるが、あくまで加工用。むいた栗はすぐ冷凍する。</p> <p>10月礼肥 ・礼肥は10月下旬(化学肥料)に施肥すると冬の雑草防止につながる</p> <p>その他 ・防風林(風よけの木)は日光を遮るばかりで意味がない。</p> <p>12月剪定・間伐 ・剪定は基本的に自分の手の届く範囲を残して行うほうが良い。 ・栗がなる枝を1㎡に5~6本ぐらい残すのがコツ(伐っても一枝に3本出てくるので問題ない)。 ・太陽が当たらないとダメ(太陽の光が当たるように南側を伐っていく)。 ・間伐は密植したときぐらいが良い。</p> <p>提言 ※山江村内に牛糞を溜めておく場所(2~3ヶ所)があれば良いのでは? ※共同で使えるイガ剥き機が各地域にあると便利 ※栗の最低価格保証がないと生産者も思い切った生産に踏み切れない。 ※栗の里というならばあらゆる所に栗の材を使うべき。たとえばバス停などのベンチに栗の木を使っては?</p>
<p>次回の内容・日時</p>	<p>6月6日 19:00~</p> <p>栗を育てる手順・コツのまとめの確認</p>

<p>主題・参加者</p>	<p>主題: やまえ栗の品質管理の具体的進め方について</p>	
	<p>参加者名: 久保田武久 田山雄貴 原先利且 川口伸也 記録: 佐藤</p>	<p>計 5 人</p>
<p>内容 (記録)</p>	<p>久保田部会長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やまえ栗のブランド化のためには、この部会で最初に話し出した「品質管理」「栽培管理」「後継者づくり」を具体的にどうするかが重要だ。今日は、この具体策を検討したい。 ・前回 (4/20) では、「栗生産のコツ」として年表形式に栽培マニュアルの原案を作成したが、これも参考にしながら検討したい。 <p>【品質管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品質管理には、栗の選別の仕方では「水選別」が効果がある。鹿本では1時間ほど水につけてやるそう。 ・水選別の前に、まず栗を木一本ずつちゃんと拾うことが大事。その日の内に拾わないと夏日で焼けてしまう。その日に拾って次の日に選別して出す。 ・他地域の栗との差別化のためには、山江独自の選別の基準があるのではないか。 ・J A で選別方法について、写真付きのものが何年前かに配布されたが (川口氏がポスターとして提示)、この山江独自のものを作って山江の生産農家に配布したり、講習会を開くなどをする必要がある。 ・山江栗をもっとブランド化するには、生産から出荷まで別にする必要がある。(選果場を独自に作った方がいいか) ・生産農家の全員の総意と自ら少しでも出資する気概があれば、いい補助事業もあるのではないか。 ・山江独自の選果基準を作って、品質の良い選果をすることが大事だ。 <p>【栽培管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月の今の時期には、特に良く栗の木を見てまわることが必要。 ・虫のついた木の穴に、噴霧器のノズルを入れて薬を注入するなど、細かい作業がある。 ・4/20の「栽培マニュアル」では、イタリアンを植えるとあるが、これが逆に草に虫がついたり、マムシがいたりして良くないと思う。 ・「マニュアル」は原案なので、そういう意味でもこれを次回しっかり見直してみよう。 <p>【後継者問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これは大きな問題だが、集落営農の法人化のように、法人化を進めて地元雇用型でやる方法しかないのかと思う。 ・法人化して、樹園地も荒地が多いので、管理組合に賃金を出してこれはどうにかしていくような仕組みがある。 ・大きな問題なので、また皆で具体案を検討したい。 	
<p>次回の内容・日時</p>	<p>次回 7月5日 (水) 19:00~ 「栽培管理マニュアル」の見直し</p>	

やまえ栗ブランド部会 (久保田武久部会長)

書記 (田山雄貴)

<p>主題・参加者</p>	<p>主題: やまえ栗の定義</p> <hr/> <p>参加者名: 久保田武久・勝原星四郎・中竹隆博・田山雄貴・豊永高希・勝山晃嗣</p> <p style="text-align: right;">計 6 人</p>
<p>内容 (記録)</p>	<p>(7月5日(水)「栗生産のコツ(4月20日作成)」の見直しのため、会議録は無い)</p> <p>やまえ栗、生栗販売のアンケート 2017 について</p> <p>簡単な質問から聞いた方が回答者は答えやすい。 性別や年代などが後になっているので、そちらを最初に聞くとよい。</p> <p>やまえ栗の定義について</p> <p>2段階で進めるとよいのではないか</p> <p>まず「やまえ栗」</p> <p>山江村で生産している栗をほぼ認定できる仕組み 用地が山江村にある。たとえば木も登録し管理する。 水選別を行った栗であるなど (熟考の結果↓)</p> <p>栽培条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低樹高栽培を実行する ・施肥は規定の施肥体系に従い実施 (栗栽培のコツ参照) ・防除は規定の防除基準以内で実施 <p>出荷条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品質管理-収穫した翌朝には出荷 ・保管-蒸れと乾燥を防ぎ冷涼な場所で保存 ・水洗選別-水に着けて不良果、浮き栗、病虫害果を選別 <p>つぎに「特選やまえ栗」</p> <p>認定やまえ栗農家制度を設けて、上記の「やまえ栗」を生産している農家の中から認定する。 選定委員会などを設けて認定する。 選定基準を定める必要がある。</p> <p>その他の意見</p> <p>上記の認定制度などが進めば、やまえ栗の品質の底上げにつながり、やまえ栗ブランドが確立し、生栗の販売金額も上昇することが考えられる。上記の制度は球磨栗で販売を目指すJAでは進められない売り方であり、現在ではやまえ堂と物産館(村内買取業者)でしか買取、販売出来ない。 そうすると、山江村の栗生産者はJAに出さずに山江村内買取業者に出荷するようになる。 そこで、栗全部を山江の中で選果し、販売する選果場が必要になると考えられる。 機械だと何億もかかるうえに、メンテナンスも必要。また、選果機だと栗の表面に傷がついてしまう。 人で選別すれば、コストは押さえられるうえに、栗の時期だけではあるが、雇用も出来る。</p> <p>まだ収穫前であるが、JAからお礼肥の注文書が回っている。 そういった意味では現場はもう来年の準備に入っているの、行政も早く仕掛けていかないと対策が後々になる。</p>
<p>今回の内容・日時</p>	<p>9月24日(日) 9:00~ やまえ栗まつり</p>

主題・参加者

主題：やまえ栗まつりの販売

内容
（記録）



平成 29 年 9 月 24 日（日）やまえ栗まつりの販売の様子

次回の内容・日時

10 月 12 日（木）19：00～今後の展開

やまえ栗ブランド部会 (久保田武久部会長)

書記 (田山雄貴)

<p>主題・参加者</p>	<p>主題 : 栗まつりの反省と今後の方向について</p> <hr/> <p>参加者名 : 久保田武久・豊永高希・勝山晃嗣・川口伸也 記録 佐藤</p> <p style="text-align: right;">計 5 人</p>
<p>内容 (記録)</p>	<p><久保田会長></p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月24日の栗まつりは大変盛況だった。本日は栗まつりの反省と今後について話し合っておきたい。 ・先日テレビで四万十の栗が評判だと報道されていた。山江も負けたくない。 ・このためには、やはり栽培を良くしてさらにブランド化にはずみをつけたい。 ・栗まつりでは、ポロタンは2時間で10kg売れてしまった。これは来年は量を増やして売りたい。 ・生栗は900kgが昼前には売ってしまったのじゃないか。栗は2~3回選別した上で出したので、評判も上がり良かったと思う。 <p><栗まつりの反省と今後の方向></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年約8,500人(去年5,000人)ぐらいが来てくれたんじゃないか。シャトルバス1台100回が3台分で300回、1台30人で9,000人になる。 ・駐車場では、半分は県外ナンバー(長崎、鹿児島、福岡)で後は熊本市や八代あたりから来ていた。 ・福岡があったのは、博多めんたいTVやラジオで事前に流してもらったことが効いていると思う。 ・イガグリをもらって帰る人もいたので、今後は箱入りにして売ってもいいかもしれない。お店のディスプレイに使うなどの他、やはりイガのついた実物をさわりたいのだと思う。 ・段ボールは3kg入りが手頃で良いのだが、今後は物産館で段ボール箱を作ったらどうか。山江栗の判が入った箱じゃないと宣伝にならないので、10箱、50箱、100箱の単位で作ったらそれぞれの農家がいやすい。 ・当日は、「栗の選別」より「売り方」に人出が足りなかった。16人中、3人が販売くらい良かった。 ・また焼いていたら間に合わないので、1時間ぐらい煮て甘みができたところで売るのが喜ばれる。 ・栗まつりは、部会としてやっているが、個人の生産農家が出品している。山江栗の評判をつくるためには部会として今後どう対応するか検討したい。 ・栗の評判を保つには、選果して悪かった分は売らない方がいい。2L以下はきちっとはじいて、3Lを売っていく。 ・来年は、例えば農家は各20kgにして出して、それ以上に不足する場合は、役員がまかなうなど、追加の仕組みを考えてやろう。 ・50人で各20kgで1t。現在は42~3軒の30軒が普通の農家なので不足は役員が補充する。 ・山江栗の品質を上げるために、「栗認定農家」の人数を決めて、その人に栽培基準を守ってもらうことがいいと思う。 ・そのための「品質ラベル」を作ったらどうか。山梨の勝沼ワインやメロンドームなどブランドの品質を保証する工夫が必ずある。 ・また剪定講習会だが、今は球磨郡の上、中、下でやっているが、やはり要望のある所で細かくやっていく方がいい。推進員の中の剪定班4人ぐらいがその場で講習をした方が効果がある。 ・今後、大事と思うことは「やまえ栗の定義」「栗の認定農家」「収量アップのための品種の絞り込み」だと思う。
<p>次回の内容・日時</p>	<p>平成 29 年 11 月 6 日 (月) 19 : 00 ~</p>

<p>主題・参加者</p>	<p>主題 : 29 年の栗の量と認定農家について</p> <hr/> <p>参加者名 : 久保田武久・豊永高希・原先利且・勝原星四郎・田山雄貴・城山幸一郎</p> <p style="text-align: right;">計 6 人</p>		
<p>内容 (記録)</p>	<p>29 年度生産量</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;"> JA (やまえ栗) 57 t 榊山江 約 10 t やまえ堂 約 38 t </td> <td style="padding-left: 10px; vertical-align: middle;"> } 総量約 100 t </td> </tr> </table> <p>4 月~6 月は雨が多く 7 月~8 月は雨が少なく暑い日が多かったため発芽・開花が約 11 日遅かった。 早栗と奥手とでは、単価が極端に違うので、収入所得が変わってくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;"> 早 ←————→ 遅 単価 高い ←————→ 安い </p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・やまえ栗というアピール効果がある。やまえ栗という印刷の入ったダンボールが必要。 ・栗まつりの栗の量は、来年は 1.3 t くらいあっていいのでは？ ・特選という裏付け (認定農家) ← 約 10 件~20 件 ・生産手順や品質の生産ルールを敷く <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売は物産館とやまえ堂になるのか？ ・生産者情報を QR コードで発送する箱に貼る ・各生産者で責任を持って箱詰めをする <div style="text-align: right; margin-right: 20px;"> <p style="font-size: 2em;">}</p> <p>こだわり</p> </div>	JA (やまえ栗) 57 t 榊山江 約 10 t やまえ堂 約 38 t	} 総量約 100 t
JA (やまえ栗) 57 t 榊山江 約 10 t やまえ堂 約 38 t	} 総量約 100 t		
<p>次回の内容・日時</p>	<p>平成 30 年 1 月 17 日 (水) 19 : 00 ~</p>		

観光・交流部会 (田村四郎部会長)

書記 (中竹浩之)

<p>主題・参加者</p>	<p>主題 : 観光案内人育成及びボンネットバスの活用について</p>	
<p>内容 (記録)</p>	<p>参加者名 : 田村四郎、赤坂修、岩崎和夫、大山澄夫、杉松章一、中竹浩之、中竹幸利 村良男、川口伸也</p> <p style="text-align: right;">記録 佐藤</p>	<p>計 10 人</p>
<p>今回の内容・日時</p>	<p>7 月 10 日 (月) 19 : 00 ~ 「朝市と協力した観光コースを設定する」</p>	

【佐藤】

- ・観光交流部会は、村内のコースをボンネットバスで見て回ったりしたが、次の具体的活動がみられていない。
- ・食の提供部会が、4/23 に「トキの朝市」を開催して盛況だった。観光交流は人をどう集めるかがまず必要なので、食の提供部会の次回の朝市に観光交流部会も参画して、ボンネットバスを活用した観光のショートコースができないだろうか。
- ・また、観光ガイドについても、ボランティアではなく、実際にやりながら少しでも良いからお金を頂く方が、結果的に継続すると思う。
- ・今日は、このような視点で、具体的な方向を決めて頂けたらと思う。

【田村部会長】

- ・食の提供部会と一緒にやってみるという案は、自分もいいと思うが、これを一つやってみるというのは宜しいか。(一同賛成する)
- ・では、具体的に「観光ガイド」と「ボンネットバスの活用」について検討したい。意見を出してほしい。

【観光ガイド】

- ・島原でも、ガイド協会に連絡すると誰かが来てやってくれたが、確か 1,500 円だったと思う。
- ・ガイドは本当は村職員で退職した人などが一番いいのじゃないか。
- ・ガイドは、そんなに正確な情報を教えるという必要はなく、むしろ楽しく面白く教えてくれる人がいい。
- ・新たにガイドを育成することも大事だが、まずはこの部会でやってみよう。
- ・その際、ガイドブックを作っておいて、それを資料代としてもらうようにするなど、ガイド代やボンネットバスの油代などを少しでも補えるように考えてみよう。

【観光コース】

- ・朝市をメインにして、ボンネットバスに乗ってまた朝市に戻ってくるようなコースなので、1 時間くらいのコースか。
- ・願掛けぐりの縮小版みたいなものになると思う。
- ・歴史や文化だけでなく、集落の景観や自然も取り入れたらなお良い。
- ・以前、まわった時は、山田伝助の墓が 3 つあること、山田こじょ、焼耐墓、いき吹き墓などの他、万江川の上流の森林浴などとても面白かった。
- ・よそから来た人が、みてくれるときれいになる。実際、いき吹き墓は、のぼりを立てたりして地元の人が余計にきれいにしてくれた。

【ボンネットバス】

- ・ボンネットバスの運転手は現在 6 人いる。みんなで、時折バスを動かして慣らしてはいるが、こんな風にいろいろ使ってもらった方がバスも維持できると思う。
- ・1 時間くらいのコースなら、いくつか考えられるが、バスの乗車賃としては料金が取れない。
- ・乗車賃ではなく、ガイドブックや資料の代金から適切な料金をもらって、ガイド代や油代を捻出していこう。

【その他】

- ・観光ガイドについては、ちゃんと勉強してきちっと法被などをそろえたり、旗を作って案内できると格好いい。
- ・若い人を参画させたいので、「若手の会」の 15 人くらいとこの観光交流部会でまず交流会を開いて、若い感覚を取り入れた観光 (アウトドアや交流体験) を考えてみよう。
- ・村の新しい特産に、栗の木の間伐や剪定材を活用した工芸品ができないか。(錦梨鳥 (きんかちょう) の紹介があった)
- ・川口氏より、本年度は各部会に対して 20 万の補助があるので、有益に使って頂きたい。

<p>主題・参加者</p>	<p>主題 : 朝市 (10/29) のイベント観光ツアーの検討</p>	
<p>内容 (記録)</p>	<p>参加者名 : 田村四郎、赤坂修、岩崎和夫、大山澄夫、杉松章一、中竹浩之、中竹幸利 村良男、川口伸也</p> <p style="text-align: right;">記録 佐藤</p> <p style="text-align: right;">計 10 人</p> <p>【田村部会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会として、「ボンネットバスの活用と観光ガイド」を目的として「観光ツアーの3案 (別紙)」を用意してきたので、これをタタキ台として皆さんの意見を出してもらい、内容を検討していきたい。 ・別紙の説明 (田村部会長) <ul style="list-style-type: none"> No. 1 朝市と隠れ念仏 ~伝助の里を訪ねて~ No. 2 日本遺産と山の香り豊から栗の里を訪ねて No. 3 紅葉の清流万江川溪谷を訪ねて <p>【朝市のイベントとして No. 1 を検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10 月 29 日に食の提供部会が予定しているイベントとして、観光ツアーを企画することになる。 ・朝市が 8 : 00 ~ 9 : 00 始まりなので、10 : 00 出発で 2 時間くらいのコースとなり、No. 1 の伝助の里を訪ねてのコースとなる。 ・朝市に来たお客さんの出費を考えて、料金を大人 2,000 円→1,000 円、子供 (小学生) 1,000 円→500 円(一応設定して検討する。 ・昼食は、時代の駅に相談したら朝市の準備などで、例えば「ダゴ汁とごはんと漬物」500 円ならできるということであった。(他に、温泉センターに 1,000 円で弁当を発注も考えられるか) ・昼食は、ツアー料金とは別にしてお客の負担を少なくしていこう。 <p>【No. 2、No. 3 については、別途検討する】</p> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光交流部会に女性や若い人の参加を促していく。 ・若い人と交流 (飲み会) を行い、参加者を増やす。 ・石屋根や石倉、石臼など「石の文化」の見どころを部会として検討してみてもいい。 ・栗ひろいとフットパス、温泉センターなどの組み合わせを考えていく。 ・田村さんのノウハウを残していくことを考えていく一方で、できるだけ田村さん個人に頼らないことも考えていく。 	
<p>次回の内容・日時</p>	<p>8 月 21 日 (月) 19 : 00 ~ 「朝市のイベントツアーの検討」</p>	

観光・交流部会 (田村四郎部会長)		書記 (中竹浩之)
主題・参加者	<p>主題 : 栗狩り体験ツアーの実施について</p> <hr/> <p>参加者名 : 田村四郎、赤坂修、岩崎和夫、大山澄夫、中竹浩之、村良男 役場経済課 今村氏 地域づくり研究所 川口、高橋</p> <p style="text-align: right;">記録 佐藤</p> <p style="text-align: right;">計 10 人</p>	
内容 (記録)	<p>【田村部会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杉松章一さんとの話の中で、9 月 24 日の栗まつりの前後で部会として「栗狩り体験ツアー」を実施したらどうかということになり、タタキ台を作ったので、皆さんの意見を聞きたい。 ・別紙資料の配布 <ul style="list-style-type: none"> ①山江村観光案内説明資料 ②No2 日本遺産と山の香り豊かな栗の里を訪ねて ③合戦峰地区物産販売所 建築設計説明会 (チラシの案内のみ) <p>上記の資料等をもとに、以下の話し合いがなされた。</p> <p>①「山江村観光案内説明資料」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A4 版カラー7 枚の説明資料は、田村氏の作成による観光ガイド資料であり、観光交流部会として観光ガイドを育成する基礎資料となることから、これを参考にして部会全員が勉強していくことになった。 ②「No2 日本遺産と山の香り豊かな栗の里を訪ねて」について <ul style="list-style-type: none"> ・部会の具体的活動の第 1 弾として、9/20 (水) ~9/26 (火) のお彼岸の期間を対象とした「栗狩り体験ツアー」の提案があり、検討の結果 9/25 (月) に実施することとなった。 <ul style="list-style-type: none"> ・田村氏からは、実施するとすれば、当日は 4~5 名の部会員が最低必要でそれぞれ役割を決めて進めたいとのことであった。 ・ボンネットバス、運転手、お金の徴収、ガイド etc の役割が想定される。 ・栗園については、それまでに協力してもらった農家を探して実施すること、また今回は広告に間がないことから、「知り合いに声をかけて」参加者をボンネットバスの定員以下、20 人くらいに限って実施することが話し合われた。 ・知り合いに声をかけて参加者を募ることから、「モニターツアー」として位置付けて、参加者にアンケート (簡単な) をもらうなど、今後の参考とするツアーとすることが提案された。 <p>【村の栗園の活用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済課の今村氏から、村所有の栗園については、20 a 弱の園地があるが、管理をシルバー人材に委託している。もし観光栗園としてモデル園地に活用されるならば活用可能との話があった。 ・田村部会長から、当地は傾斜のあるところであるが候補の 1 つとしたい。基本的には部会として農家を探して実施するが、適切などころがない場合の役場協力もお願いすることとした。 <p>【旅行業法の関係について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高橋氏から、一般的なこととして、ツアーを企画しお客を募ってお金を頂き実施すると、旅行業法の観点からこれに抵触することがあるので、良く検討しておくことのアドバイスがあった。 ・川口氏から、今後のこととして例えば旅行業者とタイアップして実施していくことも考えられるが、今回は体験料として栗狩りや食事代、ボンネットバス代などをその都度支払いながら、村内に限ってやっていくこととする。旅行業法との関係については、今後どのような形が望ましいか検討していくとの意見があった。 	
次回の内容・日時	<p>8 月 28 日 (月) 19 : 00 ~</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回において、本日のツアープログラムの修正案を提示し、再度検討することとなった。 	

<p>主題・参加者</p>	<p>主題 : 9 月 25 日 (月) に実施する「栗狩り体験」について</p>	
<p>内容 (記録)</p>	<p>参加者名 : 田村四郎、赤坂修、岩崎和夫、太山澄夫、中竹浩之、村良男 村松章一、中竹幸利、川口伸也</p> <p style="text-align: right;">記録 佐藤</p> <p style="text-align: right;">計 10 人</p> <p>田村部会長の進行で、資料をもとに以下について検討した。</p> <p>①「山江村観光案内人説明資料」の差し替えについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回配布した同資料について、改めて修正したので、本日の資料に差し替える旨の説明があった。 <p>②「秋の味覚栗狩りプログラム」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回配布したプログラムの修正案について部会長より説明があった。 ・協力して頂く栗農家は、丸岡公園に近い豊永さんの栗園 2ha にお願ひし、1,0000 円/kgで行う。それ以上については、それぞれ別途農家に払って頂くこととする。 ・経費の内、ボンネットバスの「燃料費」と「人件費」については役場負担となることから、不要との説明が川口氏からあった。 <p>③チラシ案内について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高橋氏が作成したチラシについて、時代の駅や、温泉ほたるの他、役場の案内看板等に広告して募集をかけることとなった。(持ち物に帽子を追加、また、雨天決行を明記するなどが決まった) <p>④アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案のとおり実施することになった。 <p>⑤当日の役割について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には、部会全員が何かの役につくように再度明記することになった。 ・受付とお金の徴収については、役場にお願ひしたい。 <p>⑥山江村地域づくり活動補助金交付要綱について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会ごとの 20 万円の補助など、今回の補助事業の規定について、川口氏より説明があった。 <p>⑦その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9 月 25 日 (月) の栗狩り体験の終了後、18 : 00 から反省会を実施することとなった。 	
<p>次回の内容・日時</p>	<p>9 月 25 日 (月) 当日、8 : 30 に時代の駅に集合</p>	

主題・参加者

主題 : 日本遺産と山の香り豊かな栗の里を訪ねて (栗拾い体験ツアー)

内容
(記録)

日本遺産と山の香り豊かな栗の里を訪ねて ~秋の味覚栗狩り~

昔懐かしいボンネットバスに乗って栗拾い体験と文化財の里散策 (1日コース)

【日 時】9月25日(月) 9時~

【集合場所】時代の駅むらやくば (農家レストラン)

【参加費】大人 3,000円 子ども 1,500円

【コース】

時代の駅むらやくば 【農家レストラン】9:00	合戦峰観音堂 9:30 (日本遺産)	高寺院 (日本遺産) 10:30 人吉球磨地域内最古の寺院 毘沙門天立像 (国指定重要文化財)
11:30 山田大王神社 (日本遺産) 相良氏以前この地を治めていた 地頭の霊を祀る神社 (国指定重要文化財)	12:00 息吹き墓	12:30 時代の駅むらやくば 昼食
13:30 日本一の栗拾い 栗拾い体験 丸岡栗園	14:30 時代の駅むらやくば	



平成 29 年 9 月 25 日 栗拾い体験ツアーの様子

次回の内容・日時

10月11日(水) トキの朝市と連携したツアー

主題・参加者

主題 : 朝市と隠れ念仏ツアー

内容
(記録)

(10月11日(水)は隠れ念仏ツアーのプログラム検討のため、会議録は無い)

朝市と隠れ念仏～伝助の里を訪ねて～

朝市でお買い物、その後、昔懐かしいボンネットバスに乗って田舎の風景を見ながら隠れ念仏の里を散策 (半日コース)

【日 時】 10月29日(日) 9時～

【集合場所】 時代の駅むらやくば (トキの朝市会場)

【参加費】 大人 1,500円 子ども 500円
(昼食代、保険代、ボンネットバス乗車代含む)



【コース】

時代の駅むらやくば 【農家レストラン】 9:00 	合戦峰観音堂 (伝助の供養塔) 日本遺産構成文化財 	与内山聖地 (伝助の墓) 
伝助生家の墓 西川内・親子3代の墓 	伝助を密告した富左衛門の墓 	12:00 時代の駅むらやくば 昼食 





平成 29 年 10 月 29 日 隠れ念仏ツアーの様子

次回の内容・日時

食の提供部会 (山北早織部会長)

書記 (尾方恵美)

<p>主題 (テーマ)</p>	<p>トキの朝市 開催にむけて</p>	
	<p>参加者 : 山北・前田・本山・椎葉・杉松・豊永・吉村・尾方</p>	<p>計 8 人</p>
	<p>4 月 23 日のトキの朝市に向けて最後の打ち合わせをした。</p> <p>出店者の確認、配置などが主な内容だった。 はじめての開催ということで不安もあったが、元気にやろうということに皆賛同した。</p> <p>【トキの朝市】 4 月 23 日 午前 8 時から午前 10 時まで 場所 山江村時代(とき)の駅むらやくば前</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">平成 29 年 4 月 12 日 会議の様子</p>	
<p>次回の内容</p>	<p>4 月 23 日 (日) 8 : 00 ~ トキの朝市</p>	

主題
(テーマ)

トキの朝市 (第 1 回)

4 月 23 日は天気に恵まれ、来客者が約 200 人で盛況であった。

食の提供部会 第一弾!!

トキの朝市 開催実現!!!

4月23日(日)8:00~10:00 快晴!!
野菜・山菜・米・卵かけごはん・ぜんざい・ハンドメイド...



出店者: 13 店舗

来客数: 約 200 人



次回の内容

主題
(テーマ)

福祉祭りでの食の提供部会の発表（部会長 山北早織）

福祉祭りにおいて、山北部会長が食の提供部会の活動状況について発表を行った。



平成 29 年 4 月 30 日 発表の様子

次回の内容

主題
(テーマ)

トキの朝市 開催にむけて

参加者： 山北部会長他 3 名

(6 月 17 日は懇親会のため、会議録は無い)

次回のトキの朝市の開催 (10 月 29 日) に向けて、出店内容の確認が行われた。



平成 29 年 7 月 27 日 会議の様子

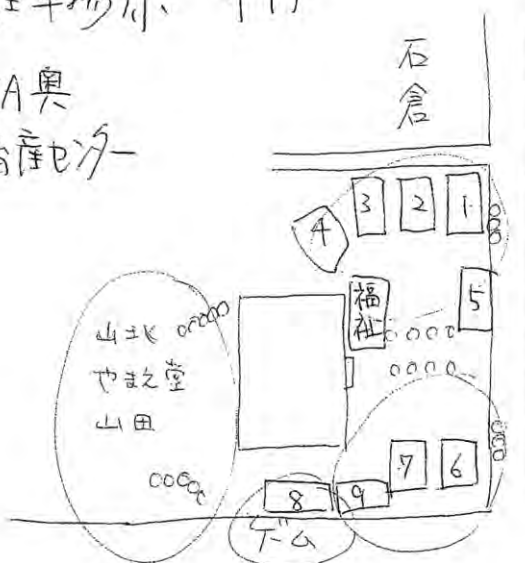
次回の内容

8 月 29 日 (火) 19:00～ トキの朝市開催の打ち合わせ

平成29年度 村づくり部会 会議録

平成29年0月0日(月) 19:00 ~

場所: 地域づくり研究所

<p>食の提供 部会 () 部会長 ()</p>	<p>書記 ()</p>
<p>主題・参加者</p>	<p>主題: 朝市</p> <p>参加者名: 山北・本山・小西・椎葉・杉松 吉村・豊永・山田・尾方</p> <p>福祉部会 東あけん</p> <p>計 人</p>
<p>内容 (記録)</p>	<p>福祉部会も参加</p> <p>こんぱく・体操服のリサイクル のために</p> <p>野菜</p> <p>果物 柿・ゆず・かぼす</p> <p>馬主車場系 中行</p> <p>JA奥 畜産センター</p> <p>石倉</p>  <p>かんぱん立て 10/27(金) 13:00~ 27 30</p> <p>参加者</p> <p>山本 横山 杉松 → お知り合い 里代・ネギ 小西 吉田 橋本 山北 本山 木下みづみ奥家 大塚 内田?</p> <p>当日朝 7:00 集合 8:00 南店</p>
<p>次回の内容・日時</p>	

主題
(テーマ)



トキの朝市（第2回）

10月29日は台風の影響のため、来客者約60人ほどであった。
今回初めて福祉部会による出店と、観光交流部会による隠れ念仏ツアーの共同開催を行った。



平成 29 年 10 月 29 日 トキの朝市（第2回）の様子

次回の内容

<p>主題・参加者</p>	<p>主題: 山江村PR動画撮影の打合せ</p> <hr/> <p>参加者名: 山本、中竹、松本、吉川、岩崎、川口、藤本</p> <p style="text-align: right;">計 7 人</p>
<p>内容 (記録)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「悦子 (エッコ) ちゃん 見守り編」 ・悦子さん本人には一言説明してある。再度確認が必要 (吉川さん) ・絵コンテ検討 (4 コマ) 1 コマ 7~8 秒 (30 秒バージョン) ・セリフ検討 → PCにて作成 ・大谷さんに出演交渉をする <p>6 月 11 日 (日) 撮影予定 9 時集合</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">平成 29 年 4 月 17 日 会議の様子</p>
<p>次回の内容・日時</p>	<p>6 月 5 日 (月) 19 時~</p>

<p>主題・参加者</p>	<p>主題 : 山江村 P R 動画撮影の打合せ</p>
<p>内容 (記録)</p>	<p>6 月 11 日の撮影内容の確認を行った。</p> <p>場所: 大王神社・2分団詰所周辺 人: インタビュアー(女性※探す?)、岩崎和也、大谷えつこ、子供たち 物: カメラ、ドローン、マイク、軽トラック、ボール、お玉、布団たたき</p> <p>[30秒]</p> <p>①② インタビュアー「えっ子ちゃんって知ってます？」 和也「あ〜・・・ぎゃーおとしかったですよ〜(カットイン: 目) ぼってん、毘沙門天ちゅーか・・・(カットイン: 口・手) 山江村ば守とるちゅーか・・・(カットイン: 全体像) なんさん・・・おとしかったですよ(笑)」</p> <p>→インタビューの途中でえっこちゃんカットイン！大王神社にて 目→口→手→全体像(ドローン)</p> <p>③ 子供が遊ぶシーン さりげなく車込み(全体)、子供の声 →車がくる(寄り)→ボールが飛び出す→子供が飛び出しそう→えっこちゃんの目光る(アップ) →飛び出す寸前にえっこちゃん叫ぶ「こらー！」→顔面蒼白の子供たち→追いかける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飛び出し ・水の出しっぱなし ・ニケツ ・神社に土足 ・田んぼに石を投げる ・ピンポンダッシュ <p>④ インタビュアー&和也の後ろでえっこちゃんが子供たちを怒る えっこちゃん「わっどまなんぼしよつとやー！」 子供「おおお、お父さーん！！」 和也「い、今でも親子で怒られています・・・苦笑」 えっこちゃん「和也こっちきてんの！」 顔面蒼白の和也・・・</p> <p>みんなの声で言う or テロップのみ 「地域で子育て 山江村」 「みんなで子育て 山江村」 「優しい鬼ババが住んでいます」 「優しい鬼ババと暮らす村」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出演者の承諾を得る
<p>次回の内容・日時</p>	<p>6 月 11 日 (日) 9 時 ~ 撮影予定</p>



主題・参加者

主題 : 山江村 P R 動画撮影

内容
(記録)

(6 月 11 日は、雨天のため撮影ができず、7 月 9 日に行った。)

7 月 9 日は山江村 P R 動画撮影日。
テーマ「地域の住民みんなで子育てする山江村」



平成 29 年 7 月 9 日 P R 動画撮影の様子

次回の内容・日時

環境防災部会 (横山 部会長)

書記 ()

<p>主題・参加者</p>	<p>主題 : 総合公園基本計画について役場担当者から説明を受ける</p> <hr/> <p>参加者名 : 横山浩之、岩本良一、田原龍太郎、清永弘文、川口伸也</p> <div style="float: right;">計 5 人</div>
<p>内容 (記録)</p>	<p>平成 28 年度に作られた総合公園基本計画について企画調整課 清永主幹が説明</p> <p>万江エリア、丸岡エリア、山田エリアに分けて公園整備をすすめていく計画内容</p> <p>各エリアごとに重要拠点整備内容がある (別紙参照)</p> <p>村全体に参加者を募る、公園づくりのワークショップを開こうと考えており、環境部会を核として進めたいがいかがか</p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸岡の活用をすべきと考えている ・グラウンドを整備するならば正式なスポーツ競技のルールに合った広さを確保できることが重要 ・丸岡公園のグラウンドは祭のときに駐車スペースとして使用することをやめなければいけない ・元栗選果場を改修してスポーツ施設 (たとえばボルダリング) にできれば、子どもたちの部活廃止時にも有効活用できるし、周辺施設 (食事処など) への波及効果があるのではないか ・次回の環境部会会議であらためて話し合い、ワークショップの核となる形で進めてよいか図りたい <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">平成 29 年 8 月 28 日 会議の様子</p> <p>確認事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元栗選果場をスポーツ施設として改修を提案した場合に村は納得できるのか (他に使用方法を考えているのではないか)
<p>次回の内容・日時</p>	<p>9 月 25 日 (月) 19 : 00 から</p> <p>次回は通知を出す</p>

環境防災部会 (横山 部会長)		書記 ()
主題・参加者	主題 : 総合公園基本計画について役場担当者から説明を受ける 参加者名 : 横山浩之、岩本良一、田原龍太郎、谷口予志之、鏡山和人、勝山清美、清永弘文、川口伸也	
内容 (記録)	計 8 人	
<p>平成 28 年度に作られた総合公園基本計画について企画調整課 清永主幹が説明</p> <p>万江エリア、丸岡エリア、山田エリアに分けて公園整備をすすめていく計画内容</p> <p>各エリアごとに重要拠点整備内容がある (別紙参照)</p> <p>村全体に参加者を募る、公園づくりのワークショップを開こうと考えており、環境部会を核として進めたいがいかがか</p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元栗選果場を改修してスポーツ施設 (たとえばボルダリング) にできれば、子どもたちの部活廃止時にも有効活用できるし、周辺施設 (食事処など) への波及効果があると思われる。 ・次回の環境部会会議で選果場の現況を確認し、その後、熊本市内のボルダリング施設を見学する。 次回は 11 月 ~ 12 月に予定 		
		
平成 29 年 9 月 25 日 会議の様子		
次回の内容・日時	11 月から 12 月に現地と先進地研修。通知を出す。	

<p>主題・参加者</p>	<p>主題: 実践に向けて</p> <hr/> <p>参加者名: 川内、藤本、城子、深水</p> <p style="text-align: right;">計 4人</p>
<p>内容 (記録)</p>	<p>部会長より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予算 20 万円を使って、部会員と生産者と一緒に加工場を見学する機会を設けることに、いよいよ具体的な話し合いに持っていきたい。 <p>会員より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漬け物が一番いいのではないかということで、村松ユミさんの味噌漬けを味見してみたかったが不幸があって手に入れることができなかった。淡島神社の彼岸祭りには人参、うり、大根、きくいも、はやとりのりなど 5~6 種類入って 1 パック 300 円で販売されていた。味も良く、なかなかの売れ行きがあった。 ・ 他にうりの塩漬けを干した物、たけのこ、椎茸、ぜんまいなどの干物なども出していたが、よく売れていた。 ・ 漬け物を作ることにしてはたして参加してくれる人はいるのか。 まずこのグループを引っ張っていく人を作り、役場にこの施設が欲しいと言った場合、部会員と生産者の本気度が勝負と思われる。 ・ まず加工場を作ることは後まわしにして、ソフト面を充実させるため、準備、段階に手間をかけ、じっくり検討する。 ・ 身近で個人の家で少人数で出来ることから区単位で始めてみてはどうか。 ・ 加工場として保健所の許可が必要なことは、上下水道の整備がしっかりしているか。流し台があるのか。囲いがしっかりしているかなど、以外と簡単と思われる。 ・ そもそもこの部会は、作る技術はあるが、売ってお金になる方法を知らない人の為のものである。 ・ 現在、イスマ、くまっこ市場など各店舗に出している人は売って稼ぐことを知っていて、問題はないが店舗によって手数料が違っているようだ。 ・ テレビで放映されている成功した例は、最初の目的は“旅費を稼いで旅行にみんなで行きたい”という楽しみを持って始めたのがきっかけで、いつしか大きな事業となり、全国から注目されはじめた。 ・ やってみることに、一歩を踏み出すことが大切で、4 区で試験的にしてみたらどうか。 味噌漬け上手な、村松ユミさん、村本節子さんに打診もし、次回この部会に出席して頂けるかどうか、日時を決めること。4 区に向いて実際指導して頂けるのかなどを深水が話を進めていく。 ・ 加工場見学する場合、下村婦人会とか、山江の加工場を持っておられる方を何軒か見学した方がいいのではないかな。 ・ 生産者の方の集まりやすい日は昼間がいいのではないかな。昼間だったら土曜、日曜だったら部会長の出席も可である。 <p>*29 年度の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> 4 月 人材のピックアップ 5 月 加工者との会合 6 月 現地視察 7 月 加工者との会合 8 月 加工場の場所選定 9 月 加工場の工事 10 月 加工場の申請許可 11 月 加工場での作業 12 月 販売開始 <p>あくまでも予定であって、変更される可能性はある。</p>
<p>次回の内容・日時</p>	

<p>主題・参加者</p>	<p>主題 : 今後どういう方向でいくか</p>	
<p>内容 (記録)</p>	<p>参加者名 : 川内、藤本、東、深水</p>	<p>計 4 人</p>
<p>次回の内容・日時</p>	<p>8 月 23 日 (水) 午後 7 時 ~ 地域づくり研究所</p>	

- ・漬け物の漬け方、販売の方向で持っていくつもりであったが、指導者が年を取り過ぎ、教えていく自信がない。
- ・方向を転換し、一から考え直す必要がある。
- ・10 月 29 日に他の部会が朝市をやるとのことにて、そこに便乗して何かをやる方向にもっていったら手取り早いのではないかと。
- ・出店料 500 円を出して、一つのコーナーを設け、そこで規模は小さいがとにかく走り出してみる。
- ・例えば、東節子さん、川内みちよさんら加工場としての許可証を持っている方に声をかけ、漬物、万十を出品してもらう。
- ・食べ物だけでなく、パッチワーク製品、陶芸品、てまり製品など作る喜びから稼げる喜びを感じてもらう為に、販売することに協力する。
- ・以上のことを持ち帰り、8 月、9 月、10 月の会議で徐々に実現化に向けていく。
- ・何かをおこすことは実は大変なことである。しかし机上の論だけでは何も進まない。とにかく小さな一歩を踏み出してみよう。
- ・10 月 29 日は第 2 回目となるため、観光部会と一緒に、ボンネットバスを利用して村民を集め、前回より大規模になる可能性がある。
- ・福祉部会は年寄りか元気で生きがいを求め、その上に少しばかりの収入があれば喜びとなるのではないかと。
- ・昔ながら民芸品 (ざる、わらじ、竹ポーキなど) を教えてくれる人が、探せば山江村のなかにもたくさんいらっしゃるのではないかと・・・。
- ・お菓子とか、万十を作る場合、許可証を持っている方の家で作れば販売してもいいが、最悪、食中毒などを起こした場合、その方の責任となるのでそこはしっかり話をつける必要がある。
- ・許可証を持っている方も例えば漬物、こんにゃく、万十など小さく品目が分かれている。



平成 29 年 7 月 19 日 会議の様子

福祉部会（川内孝之部会長）

書記（深水久美子）

主題・参加者

主題：トキの朝市（第2回）の出店

内容
（記録）

（8月23日（水）は、10月29日開催のトキの朝市出店の打合せのため、会議録は無い）



平成 29 年 10 月 29 日 トキの朝市の様子

次回の内容・日時

<p>主題・参加者</p>	<p>主題 : わかりやすい救命法 VTR 胸骨圧迫編シナリオづくり</p> <hr/> <p>参加者名 : 谷川、藤田、岡本、谷口、川口</p> <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 5px;">計 5 人</div>
<p>内容 (記録)</p>	<p>シナリオを作成</p> <p>全体で 10 分ほどの VTR 前半 5 分は救命方法を面白おかしく学べる寸劇 後半 5 分は消防士が真面目に細かく救命方法を伝える</p> <p style="text-align: center;">2017.05.23 健康・スポーツ部会 「わかりやすい救命法 VTR 胸骨圧迫編シナリオ」</p> <p>登場人物</p> <p>池畑太郎 松本せいし おねえ 1 杉松たかあき おねえ 2 川口しんや おねえ 3 藤田ゆうや 消防士 岡本しょうた カメラマン 谷口ひろかず 監督 谷川まさあき</p> <p>シーン 1 農協前付近の歩道 山江村の歩道を歩くカップル 2 人 ベンチにおねえ 2 人が座って雑談中。 おねえ 1 「おなか減ったわね。どこかランチできるとこないかしら」 池畑 「そこに時代の駅むらやくばがあるけん、そこオススメばい」 おねえ 1 「じゃあそこ連れてってよ」 少しあるくと池畑が倒れてしまう おねえ 1 「ちょっとどうしたの！」 おねえ 2 「なににに」 おねえ 3 「あらいけめん、ちょっと大丈夫？」 おねえ 1 「いきなり倒れちゃって」「ねえ！」といいながら顔を叩くことで意識確認 おねえ 2 「とりあえず安全な場所に運びましょ」</p> <p>シーン 2 時代の駅むらやくば近くの広い場所 おねえ 1 「ええっと、こんな時は…そう！あなたは 110 番を、あなたは LED を持ってきて！」 消防士 「救急車は 119 番、そして AED を準備しましょう。それから呼吸の確認をしてください」 おねえ 1 池畑の呼吸を確認。胸とお腹の動きを見て呼吸をしているか確認する おねえ 2 「救急車呼んだわよ」 おねえ 3 「AED 持ってきたわよ」 AED と LED を両手に持ってくる おねえ 1 「呼吸がないみたいなの」 おねえ 2 「胸押さなきゃ！」 おねえ 3 「私がやる」池畑のシャツを脱がしておっぱいを触る 「あら、いい体。こう？こう？」両手で胸を交互に押す 消防士 「正しい胸骨圧迫の方法は、胸の下半分を…」 おねえ 1 「なんかいきなり色白くなったわね」正しい胸骨圧迫方法を行う おねえ 1 「次は人工呼吸よね」 おねえ 2 「私がするわ」 おねえ 3 「ここは私でしょ！」 おねえ 1 「なんでよ！私に快まってるじゃない」 消防士 「そんな時間はありません。心肺蘇生は一分一秒を争います。」 おねえ 1 「疲れたわ」 おねえ 2 「次私がやるわ」 消防士 「胸骨圧迫は体力を使いますので、みなさんと協力して行ってください」 おねえ 3 胸骨圧迫をしている状況で池畑がむせる 池畑 ゲホゲホ…といい胸骨圧迫している手を払いのける おねえ 「生き返った〜！」 4 人で抱きつく おねえ 1 「みんなでランチいきましょ！」 池畑をおねえ 3 人で担いで時代の駅に入っていく 消防士 「意識が戻っても安心せずに、ちゃんと病院で検査してくださいね」</p>
<p>次回の内容・日時</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・違うパターンでのシナリオ作り ・全員のスケジュールの合う日に本日作成したシナリオを撮影

主題・参加者

主題：「わかりやすい救命法 VTR 胸骨圧迫編」撮影

内容
(記録)

(7月24日、8月29日は、シナリオ検討のため、会議録は無い)

10月24日、救命法VTRの動画撮影。



平成 29 年 10 月 24 日 撮影の様子

次回の内容・日時

<p>主題・参加者</p>	<p>主題 : 花まつりの構成について</p> <hr/> <p>参加者名 : 横山理恵、吉川和子、犬童美津子、田山レイ</p> <p style="text-align: right;">記録 佐藤</p> <p style="text-align: right;">計 5 人</p>
<p>内容 (記録)</p>	<p>※ 横山部会長より挨拶</p> <p>本日は、花まつりの絵本のストーリーについて、全体の構成を考えてみたい。</p> <p>【登場人物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 主人公 女の子 ② 弟 ③ おばあちゃん ④ おじいさん ⑤ おとうさん ⑥ おかあさん ⑦ 地域のおじさん <p>【テーマ】</p> <p>「花まつり」が「命を大切にすること、生きていられることに感謝すること」と伝えられるような絵本のストーリーにする。</p> <p>【全体の枚数】</p> <p>表紙を除いて、12 枚くらいになるかと思う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">平成 29 年 4 月 13 日 会議の様子</p>
<p>次回の内容・日時</p>	<p>5 月 18 日 (木) 13 : 30 ~ 地域づくり研究所</p>

<p>主題・参加者</p>	<p>主題 : 部会の活動について</p> <hr/> <p>参加者名 : 横山理恵、内山三也子、郡真聖、吉川和子、川口伸也</p> <p style="text-align: right;">計 5 人</p>
<p>内容 (記録)</p>	<p>※横山部会長より挨拶</p> <p>◎前回の「花祭りの構成案」について・・・経過報告</p> <p>※横山、吉川でストーリーの作成について報告</p> <p>※別紙</p> <p>☆今日は、</p> <p>内容、表記、対象年齢、流れ・・・などを考えてほしい。</p> <p>登場人物 → ① 主人公 あかり (小学校 2 年生) ② 弟 たいち (保育園)</p> <p style="padding-left: 40px;">③ おばあちゃん ④ おじいちゃん</p> <p style="padding-left: 40px;">⑤ おとうさん ⑥ おかあさん</p> <p style="padding-left: 40px;">⑦ 地域のおじさん</p> <p>(1) 春の風景</p> <p>(2) よるごはん</p> <p>(3) 【甘茶】への道</p> <p>(4) お堂のまえ (花まつり会場)</p> <p>(5) お参りの仕方と甘茶</p> <p>(6) おしゃかさま (インド) 今回はここまで、</p> <p>(7) 龍</p> <p>(8) おしゃかさま (像)</p> <p>(9) 保育園児もお参りに</p> <p>(10) 甘茶をおみやげに</p> <p>(11) 地図 (インド→日本→山江村・・・) ?</p> <p>(12) あかりちゃんがおかあさんに</p> <p>※ 12 枚のストーリーを読みながら校正する。</p> <p>※ 同時にお話に沿って、文の様子を {絵} に考えながら想像し、確認する。</p> <p>プログラム (6) まで読み合わせできる。後は 6 月にする。次回まで読んでおくこと・・・宿題。</p> <p>※郡 さんより</p> <p style="padding-left: 20px;">「甘茶」について</p> <p style="padding-left: 40px;">夏の土用に摘んで、揉んで干す。発酵した苦みが甘くなる。</p>
<p>次回の内容・日時</p>	<p>6 月 15 日 (木) 13 : 30 ~ 地域づくり研究所にて</p>

<p>主題・参加者</p>	<p>主題：花まつりの原稿校正</p> <p>参加者名：横山理恵、内山三也子、犬童美津子 記録 佐藤</p> <p style="text-align: right;">計 4 人</p>
<p>内容 (記録)</p>	<p>(6月15日は、花まつり構成案の再検討のため、会議録は無い)</p> <p>横山部会長の進行によって、「花まつり」の原稿修正その他を検討した。</p> <p>【原稿校正】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文の①～⑩が修正された。(当日、横山部会長がデータ修正) <p>【絵本か紙芝居かについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> 最終的な成果が絵本なのか紙芝居なのかについて次回皆で決めようという確認がなされた。 川口氏からは、両方作ってもいいのではないかと意見があった。 <p>【絵、イラストについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中竹浩之氏の絵のタッチ(イメージ)を一度みせてもらいたいので、本日夜行われる観光交流部会の後、佐藤から中竹氏にイメージ1枚を書いてもらうことを依頼することとなった。(次回までに書いて頂き、みんなで検討してみる) その他、犬童さんのお知り合いの方など、絵を書いて頂けそうな人にもたずねてみることとなった。 <div style="margin-top: 20px;"> <p>① 春の風景 ほんわか あたたかい たいようの ひかりが、 やさしく さくらの はなびらを てらしています。 さくらの きらしたに、なのはなや、すいせん、のみに あざみ、 ひろい たんぼには あざやかないろの れんげの はなが さいています。</p> <p>② よるごはん そんな はるのひの よる、あかりちゃんの おうちでは、 みんな そろって テーブルを かこんで、ばんごはんを たべています。 すると、おばあちゃんが いいました。 『あしたは、四月八日<small>しがつはつにち</small>よね。あかりちゃん、甘茶<small>あまぢあ</small>がある「花御堂」 いこうか。』 『ぼくも いく。』 くちを もぐもぐしながら たいちが いいました。 『たいちは ほいくえんですよ。』 と、おかあさんが いいました。</p> <p>③ 『ふーん。』甘茶<small>あまぢあ</small>か・・・』 あかりちゃんは、おばあちゃんとの おでかけを たのしみにして ふとんに もぐりました。</p> <p>③ 「甘茶」への道 つぎのひ、あかりちゃんと おばあちゃんは、なかよく てをつないで 甘茶<small>あまぢあ</small>のある「花御堂」へあるいています。 『ねえ、おばあちゃん。どうして四月八日に「甘茶」にいくの？』 『おしゃかさまの たんじょうびよ。いまから ずーっと ずーっと むかしにね・・・ あっ、もう ついたね。』</p> </div>

④ 花御堂の前(花まつり会場)

「わあ、きれい！」
「いとどどりの はるの はなで かざられた やねの 『花御堂』
に つきました。
『あざみや つつじ、れんげなど、はるにさく おはなで
いっぱい かざってあるのよ』
花御堂の やねの したには、おみずのはつた まるい おけの
まんなかに、ちいさな ひとが たつています。」

⑤ お参りの仕方と甘茶

「この おみずは、なあに。」
「これがね、おみず じゃなく、『甘茶』って、いうのよ。ちよつと
あたたかいでしょ。」
「甘茶って、これ？」
「そう。あじさいに にている 甘茶の はつばを にたものよ。
そしてね、この ながい ひしゃくで、この 甘茶を まんなかの
小さな方に、やさしく かけて あげるのよ。」
おばあちゃんが おまいりの しかたを おしえてくれました。

⑥ おしやかさま(インド)

「その、まんなかに たっている、ちいさな ひとは、あかちゃんの
おしやかさまだよ。」
と、となりで、おまいりを していた おじさんが、はなしかけた。
「あのね、とおい、わがし、インドというくにに、うつくしい
ルンビニーえんという はなばたけが あったんだよ。そこで、おじ
さまが、おうまれに なったんだ。その、おうじさまが、おしやかさま
だって。この、きれいな、おはなで、かざられた、花御堂は、その
ルンビニーえんを、あらわしたものでしょ。」
と、くいげな、おじさんの、はなしを、うんうんと、おばあちゃんも
まわりのひとも、うなずきながら、きいています。

⑦ 地図

インドでは、二千五百年ほどまえに、おしやかさまが、おうまれになつ
たことを、お祝いする、ぎょうじが、はじまりました。
そして、千年ほどすぎたころ、日本に、伝わりました。「はなまつり」
というなまえが、広まったのは、だいにじせかいのあとのことです。

⑧ りゆう

「それで、それで、甘茶は？」
と、あかりちゃんが、ききました。
「おしやかさまが、おうまれになったときに、9ききの りゆうが
うれしくなつて、てんから、あまい、つゆの、あめを
からせたんだって。おしやかさまが、うまれて、はじめて
はいったおから、産湯(うぶゆ)なんだ。だから、甘茶がはいった
まるい、おけの、なかに、あかちゃんの、おしやかさまが、いるんだよ。」
と、おじさんが、おしえて、くれました。

⑨ おしやかさま

「あかちゃんのために、なんで、たつてるの？」
あかりちゃんは、走(は)りまわった。ききたい、ききたい、ききたい。
「あかちゃん、たつたんだね。おしやかさまは、うまれて、すぐ、
まえに、7ほしうらに、7ほ、みぎにも、ひだりにも、うまれて、すぐ、
あるいたらしいよ。こんなふうだね。みぎで、うねに、あけて、
てんを、さし、ひだりでは、したに、わけて、じめを、さしたんだっ
て。みて、ころん、この、おけの、なかの、おしやかさまも、おじさんと
おなじ、かっこうを、しているんだ。」
あかりちゃんは、おじさんの、かっこうを、みたあと、おけの、なか
の、おしやかさまを、じーっと、みつめました。
「おじさん、すごい！ ほんとうだ！」
「そしてね、『天上天下唯我独尊』って、いったらうだよ。この
ひろい、よのなかで、わたしたちの、いのちは、たつた、ひとつだから、
たいせつに、いきて、いくんだよ、という、いみなんだって。
だからね、ごもたが、すすく、そだつて、おい、いりながら、
おしやかさまの、たんじょうびを、みんなで、お祝いしているんだ。」
「ふーん、そうなんだ。」

⑩ 保育園見もお参りに

あかりちゃんが、いろんな、はなしを、きいている、あいだにも、
たくさんのひとが、花御堂に、やってきました。
ちかくの、ほいくえんの、ごもたちも、います。
「おばあちゃん、きたね。」
ほいくえんの、ごもたちも、みんなの、まねをして、おしやかさまに
甘茶を、かけて、おまいりを、しました。

⑪ 甘茶をおみやげに

おばあちゃんは、きけていた、ふくろから、びんを、とりだし、
甘茶を、わけてもらいました。さっそく、おじちゃんたちの
おみやげに、もつてかえりました。
おじちゃんも、まず、おうちの、ほとけさまに、おそなえをし、
そのあと、
「わがでや、まむしが、はいってきませんように。」
と、いえの、まわりに、まきました。
おかあさんは、
「あなたが、よくなりませうように、びょうきになりませんように。」
と、あたまを、からだに、つけました。
おじさんは、
「けがを、しませんが。」
と、ひざや、あしくびに、つけました。
あかりちゃんも、たいちくんも、まねをして、からだじゅうに
つけました。おしやかさまの、こりやくが、ありますように、と、
おねがいました。

⑫ あかりちゃんがお母さんに

ながい年月がたち、おばあちゃんも、でを、つないでいた、あかりちゃん
も、おかあさんに、なりました。あかりちゃんの、ひだりでは、
ちいさな、おんなのこ、もちちゃんの、みぎで、つながつています。
きょうは、四月八日、甘茶のひ、おしやかさまの、たんじょうびです。
あのとときと、おなじ、あたたかい、たいようの、ひかりが、ふたりを
てらしています。もちろん、いきさきは、きれいな、はなで、かざられてい
る、花御堂がある、花まつりの、かいじょうです。

やまむらでは、ながいあいだ、おてらや、ちく、おうちで、おこな
われ、いまでも、うけつがれています。

ことしも、甘茶の、かおりが、たくさんの、ひとを、つつんでいます。
おしまい

次回の内容・日時

10月2日(月) 13:30~

<p>主題 (テーマ)</p>	<p>1. 部会の活動について 2. (H28,9,13 H28,10,4 H2811,15 H28,12,13 H29,1,18 H29,2,22 H29,3,16 H29,4,13 H29,5,18 H29,6,15 H29,7,13 H29,8,28 を踏まえて)</p> <p>出席者名: 横山理恵、犬童美津子、内山三也子、郡 眞聖 川口伸也、</p> <p>欠席: 坂田妃美、吉川和子、田山レイ</p>	<p>計 5 人</p>
<p>内容 (記録)</p>	<p>※横山部会長より挨拶 ◎前回の「花祭りの構成案」について 経過報告 ※12枚のストーリーの校正済みについて報告 (別紙)</p> <p>☆今日は、</p> <p>※ 校正したストーリーを、再確認し、更に読みながら校正する。</p> <p>内容、表記、対象年齢、流れ・・・などを考えながら 登場人物 → ① 主人公 「あかり」 (小学校2年生) ② 弟 「たいち」 (保育園) ③ おばあちゃん ④ おじいちゃん ⑤ おとうさん ⑥ おかあさん ⑦ 地域のおじさん</p> <p>5/18 済 (1) 春の風景 5/18 済 (2) よるごはん 5/18 済 (3) 【甘茶】への道 5/18 済 (4) お堂のまえ (花まつり会場) 5/18 済 (5) お参りの仕方と甘茶 5/18 済 (6) おしゃかさま (インド) 6/15 済 (7) 龍 6/15 済 (8) おしゃかさま (像) 6/15 済 (9) 保育園児もお参りに 6/15 済 (10) 甘茶をおみやげに 6/15 済 (11) 地図 (インド→日本→山江村・・・) ? 6/15 済 (12) あかりちゃんがおかあさんに</p> <p>※ イラストの割り振り。レイアウト ※ 原稿を読み更に校正 (郡さんより専門用語に指摘していただく。)</p>	
<p>次回の内容・日時</p>	<p>10月26日(木曜日) 13:30~ 地域づくり研究室にて ※12枚を通して文を読み、絵のレイアウト</p>	

<p>主題 (テーマ)</p>	<p>1. 部会の活動について 2. (H28,9,13 H28,10,4 H28,11,15 H28,12,13 H29,1,18 H29,2,22 H29,3,16 H29,4,13 H29,5,18 H29,6,15 H29,7,13 H29,8,28 H29,10,2 を踏まえて)</p> <p>出席者名: 横山理恵、内山三也子、吉川和子、坂田妃美、川口伸也、 欠席: 郡 眞聖、田山レイ、犬童美津子</p>	<p>計 5 人</p>
<p>内容 (記録)</p>	<p>※横山部会長より挨拶 ◎前回の「花祭りの構成案」「絵」について 経過報告 ※12枚のストーリーのイラスト絵の割り振りについて報告 (別紙)</p> <p>☆今日は、</p> <p>※ 校正したストーリーを、イラストの確認、レイアウトの練り直し。 ※ 人物、絵の確定 。</p> <p>内容、表記、対象年齢、流れ・・・などを考えながら 登場人物 → ① 主人公 「あかり」 (小学校2年生) ② 弟 「たいち」 (保育園) ③ おばあちゃん ④ おじいちゃん ⑤ おとうさん ⑥ おかあさん ⑦ 地域のおじさん</p> <p>5/18 済 (1) 春の風景 5/18 済 (2) よるごはん 5/18 済 (3) 【甘茶】への道 5/18 済 (4) お堂のまえ (花まつり会場) 5/18 済 (5) お参りの仕方と甘茶 5/18 済 (6) おしゃかさま (インド) 6/15 済 (7) 龍 6/15 済 (8) おしゃかさま (像) 6/15 済 (9) 保育園児もお参りに 6/15 済 (10) 甘茶をおみやげに 6/15 済 (11) 地図 (インド→日本→山江村・・・) ? 6/15 済 (12) あかりちゃんがおかあさんに</p> <p>※坂田妃美さんに、人物、絵の確定ができたので、同じ大きさの用紙に設定し描いていただく。</p>	
<p>次回の内容・日時</p>	<p>12月13日 (水曜日) 13:30~ 地域づくり研究室にて 色塗り作業</p>	